

Super-Entry 用
フォーマット作成／読込ツール *Ver3*

操作説明書

株式会社 エス・イー・シー

(第2.1版)

マニュアルについて

本書は、“Super-Entry用フォーマット作成／読み込みツールVer3”（以下、FMT作成／読み込みツールVer3）をWindows 7 Enterprise上でMicrosoft Excel 2010稼働させた状態で動作しているものとして説明しています。

ご使用のOSやMicrosoft Excelのバージョンによっては、画面が一部異なる場合があります。

キーの表記

キーは、Enter のように、枠で囲んでいます。

Shift+Tab は、Shiftを押しながら、Tabを押すことを示します。

クリックとは、マウスの左をクリックする事を示します。

ご注意

1. 本書の内容の一部または全部を無断で転載することは禁止されています。
2. 本書の内容は、予告なく変更することがあります。
3. OS（オペレーティングシステム）やMicrosoft Excelのバージョンにより、本書の内容と異なる部分があります。予めご了承下さい。
4. 本書の内容については、万全を期していますが、万一不明な点、誤りなどございましたら、ご一報下さいますようお願い致します。
5. このシステムを運用した結果の影響については、責任を負いかねますので、ご了承下さい。

目 次

■FMT 作成／読込ツール VER3 について.....	- 1 -
▼FMT 作成／読込ツール VER3 の機能.....	- 1 -
■準備するプログラム／ファイルについて.....	- 3 -
▼あらかじめ用意するプログラム及びファイル	- 3 -
▼インストールを推奨するプログラム.....	- 4 -
■FMT 作成／読込ツール VER3 を使ってみましょう.....	- 5 -
▼FMT 作成／読込ツール VER3 の準備.....	- 5 -
▼INC ファイルの取り込み	- 6 -
▼FMT 作成／読込ツール VER3 のショートカット作成.....	- 8 -
▼FMT 作成／読込ツール VER3 の起動.....	- 9 -
▼画面構成と共通操作	- 9 -
▼XLS・XLSM ファイルから FMT ファイルを作成する	- 10 -
▼FMT ファイルから XLS・XLSM ファイルを作成する	- 15 -
▼XLSM ファイル(フォーマットエディタ互換シート)を編集する.....	- 18 -
▼XLSM ファイル(フォーマットエディタ互換シート)にイメージを関連付ける.....	- 26 -
▼XLSM ファイル(フォーマットエディタ互換シート)から SP1 ファイルを作成する	- 30 -
▼FMT 作成／読込ツール VER3 の設定を保存・読込.....	- 33 -
■FMT 作成／読込ツール VER3 機能詳細	- 35 -
▼フォーマット作成	- 35 -
▼エクセル書き出し.....	- 38 -
▼エクセル操作	- 40 -
▼イメージ関連付け	- 42 -
▼SP1 ファイル.....	- 44 -
■エクセルシートについて	- 45 -
・標準のシート	- 45 -
・拡張シート(デザイン補助).....	- 50 -
・フォーマットエディタ互換	- 55 -
■複数の FMT ファイルを結合する.....	- 61 -
使い方	- 61 -
■エラーメッセージについて	- 62 -
・画面の設定値のエラー	- 62 -
・シートまたはフォーマットの設定値のエラー	- 64 -

■FMT 作成／読込ツール Ver3 について

▼FMT 作成／読込ツール Ver3 の機能

本ツールは、Super-Entry で用いるフォーマットファイルの作成・編集をより、快適にすることを目的として作成しました。

機能は以下の通りです。

- ①エクセルファイルからのフォーマットファイル作成
- ②フォーマットファイルからのエクセルファイル作成
- ③エクセルファイルの編集
- ④エクセルファイルとイメージファイルの関連付け

※Super-Entry 7 の連動が必要です。

- ⑤エクセルファイルからの Sp1 ファイル作成

▼エクセルファイルからのフォーマットファイル作成

本ツールのテンプレートに準拠したエクセルファイルから、フォーマットファイルを作成します。
目的に応じたテンプレートファイルを使用することで、フォーマットファイルの作成に役立ちます。
出力時のデザインオプションとして以下の設定が可能です。

- ①フォーマットの大きさ指定
- ②イメージ名フィールドの付加と配置、長さの指定
- ③項目名をコメントとして付加
- ④ページの左上の位置指定
- ⑤一行ごとの項目数指定
- ⑥改行の間隔指定

▼フォーマットファイルからのエクセルファイル作成

Super-Entry や本ツールで作製したフォーマットファイルから、エクセルファイルを作成します。
既存のフォーマットファイルをエクセル上で編集する際に便利です。
書出オプションとして以下の設定が可能です。

- ①コメントを除外する
- ②sp1 ファイルのプロパティを反映する。

▼エクセルファイルの編集

本ツールのフォーマットエディタ互換ファイルに準拠したエクセルファイルを編集します。
視覚的に編集する時や、マクロの編集シートを使用する際に便利です。
機能は以下の通りです。

- ①表形式で編集する
- ②入力レイアウトを生成して視覚的に編集する
- ③入力レイアウトから表形式を更新する
- ④表形式から出力設定シートを更新する
- ⑤マクロの反映を行う
- ⑥出力マクロの確認を行う

▼エクセルにイメージ関連付け

※Super-Entry7 の連動が必要です

本ツールのフォーマットエディタ互換ファイルに、準拠したエクセルファイルを、イメージを関連付けることができます。詳しくは Super-Entry のマニュアルをご覧ください。
関連付け後もエクセル上で編集を続ける際など、フォーマットファイルを介したくない場合に便利です。

▼エクセルから Sp1 ファイル作成

※一部機能は Super-Entry7 の連動が必要です。

本ツールのフォーマットエディタ互換ファイルに準拠したエクセルファイルから、
Sp1 ファイルを作成します。
また、Super-Entry7 と連携し、Sp1 ファイルのプロパティやマクロも編集できます。
完成したエクセルファイルを変換する際に便利です。

■ 準備するプログラム／ファイルについて

▼FMT 作成／読込ツール Ver3 を使用するに当たり あらかじめ用意するプログラム及びファイル

No.	名 称	備 考
1	Microsoft Excel	フォーマット作成のため、Excel シートの確認・編集を行います。 FMT 作成／読込ツール Ver3 の機能に必要です。 Microsoft Excel 2007・2010・2013 にて動作確認済みです。
2	.Net Framework 4.0	FMT 作成／読込ツール Ver3 の稼働に必要です。 OS に標準搭載されていない場合、インストールが必要です。 http://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=24872
3	excel2fmt.exe	FMT 作成／読込ツール Ver3 のプログラム本体です。 任意のフォルダに配置してください。 必要に応じてショートカットアイコンを作成して下さい。
4	BaseV5.dll ComDll.dll Core.dll FmtMacro.html FreeMacro.html macparser.exe	FMT 作成／読込ツール Ver3 のサブプログラムです。 excel2fmt.exe と同じフォルダに配置して下さい。
5	standard_template.xls (標準のシート) expansion_template.xls (拡張シート(デザイン補助)) template.xlsm (フォーマットエディタ互換)	フォーマット書出で使用する、ひな形の Excel シートが収められたファイルです。フォーマット作成に必要なシートのひな形としても利用可能です。 excel2fmt.exe と同じフォルダに配置して下さい。 注意事項： ①使用前に必ずバックアップを取っておいて下さい。 ②このファイルは編集しないでください。 ③編集してしまった場合は ・バックアップファイルをコピーする などの対処をお願いします。

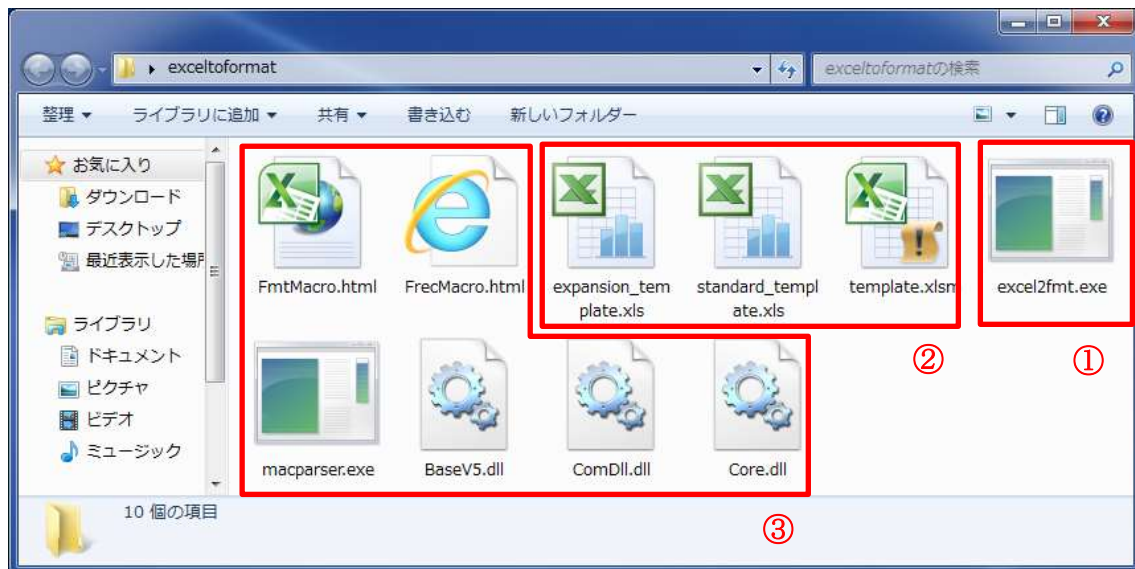
▼インストールを推奨するプログラム

No.	ソフトウェア名	備 考
1	Super-Entry	イメージ関連付けやフォーマットのテスト入力などに使用します。
2	Inc ファイルフォルダ	Super-Entry の入力時やテキスト出力時などに用いられます。 “[Super-Entry のインストールパス]¥SYSTEM” フォルダに中身をコピーしてください。 ※通常は “C:¥SuperEntry” にインストールされています。
3	ewin. exe EntryViw. exe NOHIN. EXE nohin-con. exe	“[Super-Entry のインストールパス]¥PROGRAM” フォルダに入っている Super-Entry のプログラムです。 これらのバージョンが古い場合、FMT 作成／読込ツール Ver3 が正常に動作しない場合があります。

■FMT 作成／読込ツール Ver3 を使ってみましょう

▼FMT 作成／読込ツール Ver3 の準備

FMT 作成／読込ツール Ver3 を起動するための準備です。



①FMT 作成／読込ツール Ver3 本体です。

excel2fmt.exe

②FMT 作成／読込ツール Ver3 のエクセルテンプレートファイルです。

standard_template.xls (標準のシート)

expansion_template.xls (拡張シート(デザイン補助))

template.xlsm (フォーマットエディタ互換)

③FMT 作成／読込ツール Ver3 のサブプログラムです。

BaseV5.dll

ComDll.dll

Core.dll

FmtMacro.html

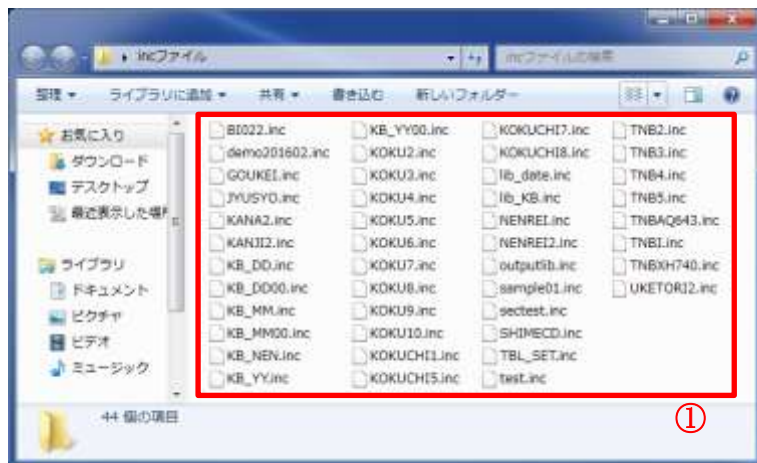
FrecMacro.html

macparser.exe

以上のファイルが一つのフォルダに入っていることを確認してください。

▼inc ファイルの取り込み

inc ファイルを Super-Entry のフォルダに取り込みます。



①inc ファイルフォルダの中身です。

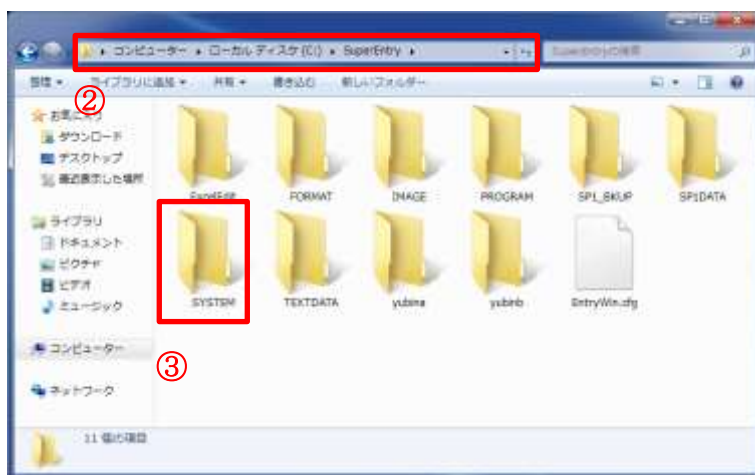
内容は変更されることがあるため、同じファイル数・ファイル名とは限りません。

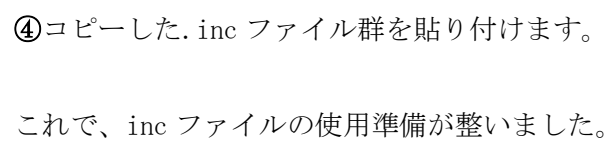
フォルダ内のファイルを全てコピーします。

②SuperEntry のインストールフォルダを開きます。

※通常は“C:¥SuperEntry”にインストールされています。

③ “SYSTEM” フォルダを開きます。





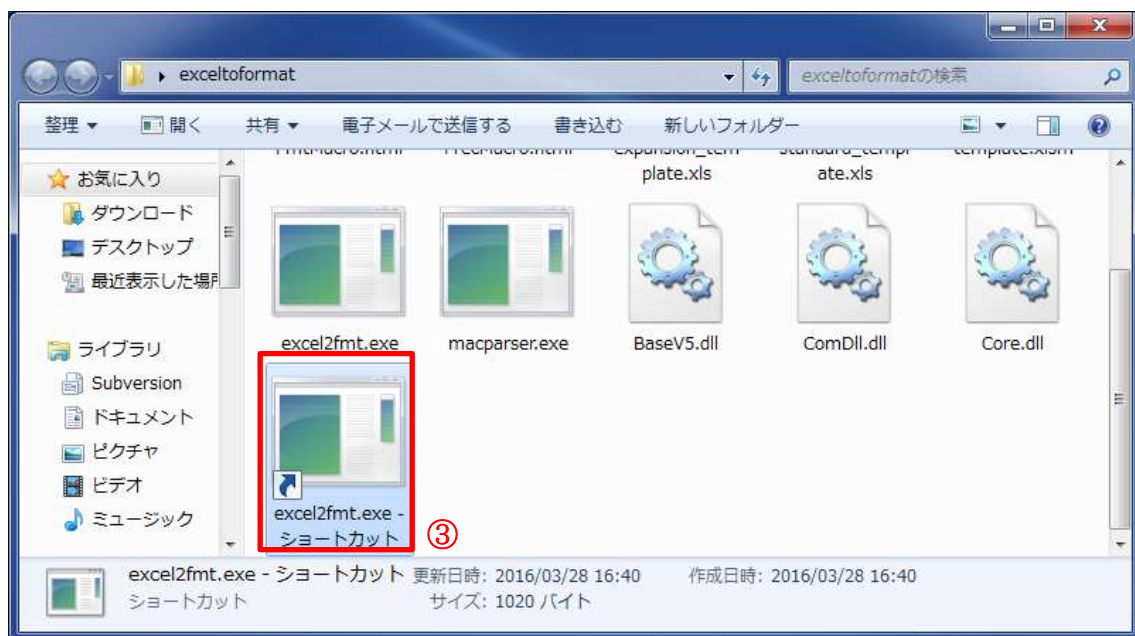
▼FMT 作成／読込ツール Ver3 のショートカット作成

FMT 作成／読込ツール Ver3 を起動するためのショートカットを作成します。



①excel2fmt.exe にマウスカursorを合わせ、右クリックします。

②メニューが出てくるので、“ショートカットの作成” をクリックします。



③ショートカットファイルが生成されるので、使いやすい場所に配置してご使用ください。

▼FMT 作成／読込ツール Ver3 の起動



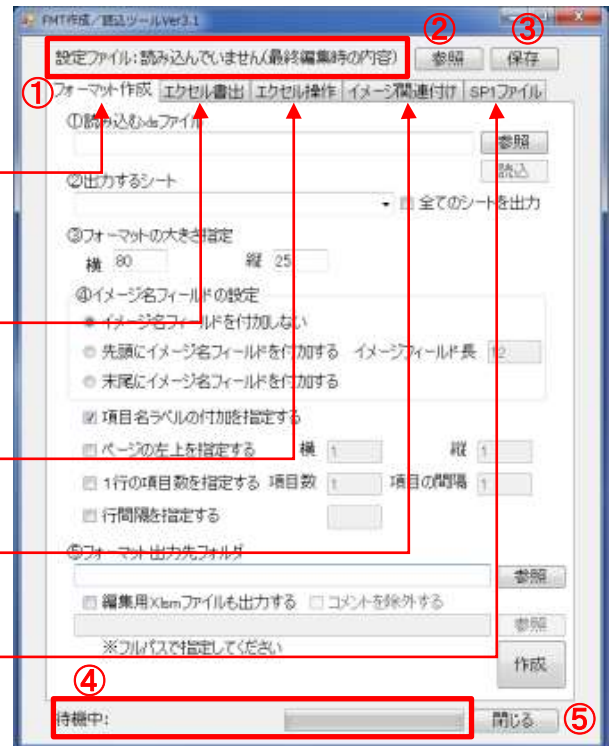
excel2fmt.exe -
ショートカット

excel2fmt.exe のショートカットをダブルクリックします。

▼画面構成と共通操作

FMT 作成／読み込みツール Ver3 を起動すると右図のような画面が表示されます。

- ・フォーマット作成
 - ・・・xls・xlsm ファイルから FMT ファイルを作成
- ・エクセル書出
 - ・・・FMT ファイルおよび SP1 ファイルから xls・xlsm ファイルを作成
- ・エクセル操作
 - ・・・xlsm ファイルを編集
- ・イメージ関連付け
 - ・・・xlsm ファイルにイメージを関連付け
- ・SP1 ファイル
 - ・・・xlsm ファイルから Sp1 ファイルを作成



- ①設定ファイル名:「読み込んでいません」と表示されている場合、「標準設定ファイル」を使用しています。
それ以外の場合、読み込んだ設定ファイルを表示します。
- ②設定ファイル参照ボタン: あらかじめ保存した設定ファイルを読み込みます。
- ③設定ファイル保存ボタン: 設定を「標準設定ファイル」以外のファイルに保存します。
- ④処理内容表示(テキスト・プログレスバー): ファイルの作成状況を表示します。
- ⑤閉じるボタン: 画面を閉じます。

ご参考 設定ファイルについては、以下の表の通りです。

No.	名称	内容
1	標準設定ファイル	FMT 作成／読込ツール Ver3 によって、起動時に自動読み込み、終了時に自動保存されます。
2	設定ファイル(.fini)	任意のファイル・デザイン設定を保存しておくことができます。 読み込み時、標準設定ファイルの内容は上書きされます。

▼FMT 作成／読込ツール Ver3 を使って、
xls・xlsm ファイルから FMT ファイルを作成する

準備するもの

No.	名 称	備 考
1	[任意のファイル名].xls 又は [任意のファイル名].xlsm	<p>フォーマット作成に必要な情報を、Excel シートに記述します。</p> <p>テンプレートファイルには</p> <ul style="list-style-type: none"> ① standard_template.xls (標準のシート) ② expansion_template.xls (拡張シート(デザイン補助)) ③ template.xlsm (フォーマットエディタ互換) <p>以上3つのテンプレートファイルがあります。以下にファイルごとの説明があります。ご参照の上、いずれかコピーしてご利用ください。</p> <p>FMT 作成／読込ツール Ver3 でファイルを取り扱う前に、エクセル上でシート名を必ず変更してください。</p> <p>(シート名を FMT ファイル名として使用します。フォーマットエディタ互換ファイルにおいては、ファイル内の「フォーマットエディタ互換」シートの名前を変更してください。)</p> <p>注意：以下事項は行わないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 塗りつぶし・コメント (エラー表示に使用します) ② 列見出し・列数の変更 (正常に動作しない可能性があります)

No.	テンプレートファイル・名称	内容
1	standard_template.xls (標準のシート)	標準のシートです。フォーマット設計に必要な最低限の設定内容です。項目の配置に関する情報はありません。フォーマット大枠や、項目数の多いものを編集する時にお使いください。
2	expansion_template.xls 拡張シート(デザイン補助)	「標準のシート」に、項目を配置するためのカラムを足したシートです。最低限の内容に加え、デザイン情報も編集したい時にお使いください。
3	template.xlsm (フォーマットエディタ互換)	FMT ファイルに必要な、すべての情報を持つシートです。エクセル上ですべての項目を編集する時にお使いください。

※各テンプレートファイルでは

- ・項目の並び方
- ・記述しなければいけない項目

が異なりますので、

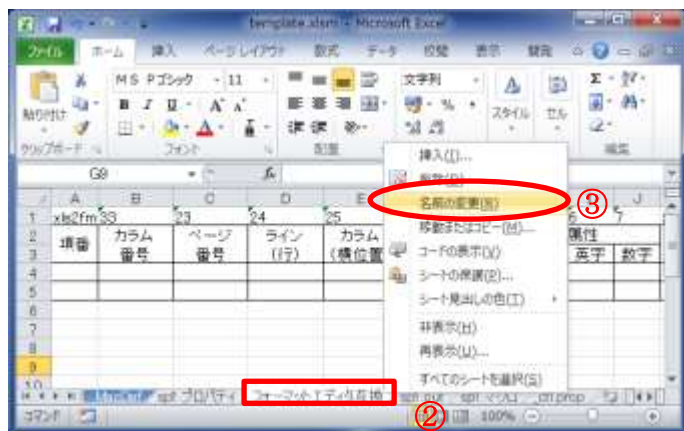
① 各テンプレートファイルごとの「シートレイアウト」(後述)

② サンプル xls・xlsm ファイル

をご参照ください。

シート名を変更する手順

※出力する FMT ファイルの名前は、” エクセルシート名.fmt” となります。

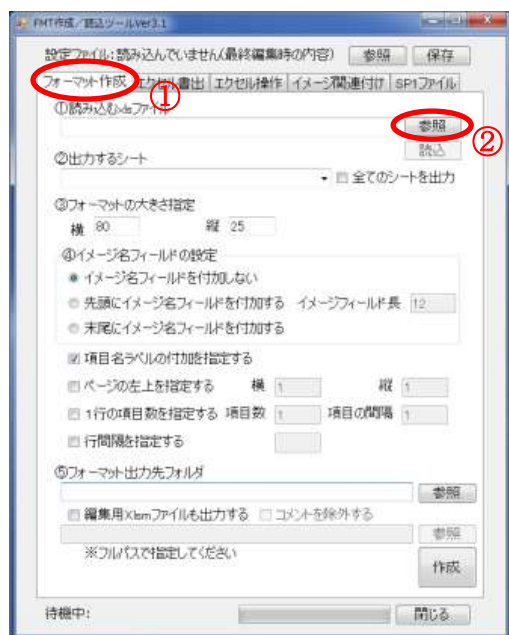


①エクセル上で、テンプレートファイルを開きます。(画像はフォーマットエディタ互換の template.xlsx です。)

②画面下部にあるシート欄から、
template.xlsx なら
“フォーマットエディタ互換”
他のファイルなら
“ひとつだけあるシート”
を選択します。

③選択したシートをダブルクリックするか、
右クリックしてメニューを呼び出し、
“名前の変更(R)”
をクリックすると編集可能になります。

xls・xslm ファイルを読み込んで、FMT ファイルを作成する手順

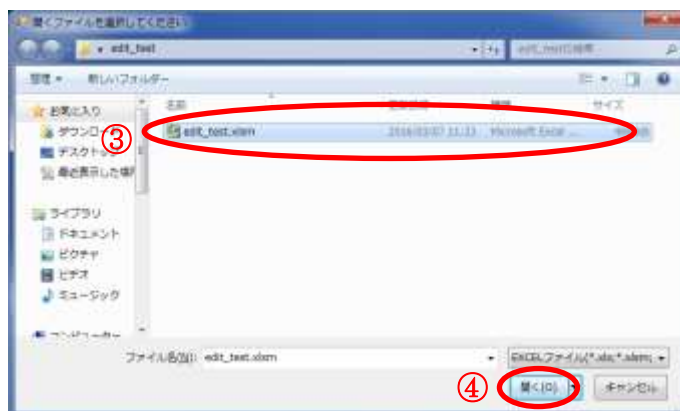


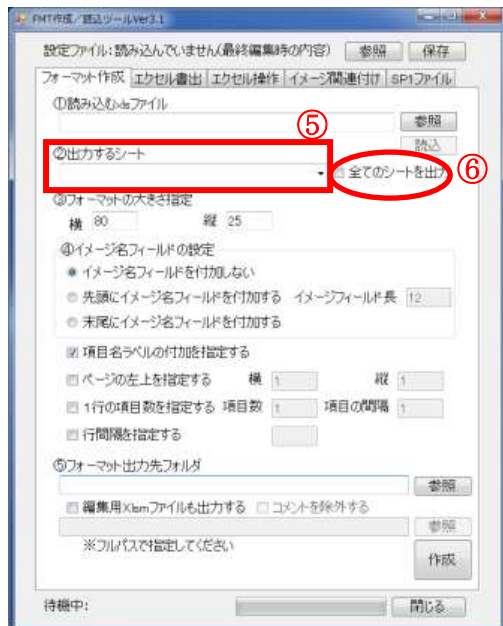
① “フォーマット作成”タブをクリックします。

② “読み込むxlsファイル”の右隣りにある
参照ボタンをクリックします。

③ 定義された xls・xslm ファイルを選択します。

④ **開く**ボタンをクリックします。





⑤ エクセルファイルが読み込まれ、ファイル内の出力可能なシートが“出力するシート”に反映されます。

FMT ファイルを作成したいシートを▼をクリックして選択します。

・・・すべてのシートから FMT ファイルを作成したい場合

⑥ ”全てのシートを出力“にチェックを入れてください。

※フォーマットエディタ互換のシートでは、シート名が「.表形式」になっているものを出力します。

⑦ “フォーマットの大きさ指定”では、

横：文字数 縦：行数

をそれぞれ指定します。

また、xlsm ファイルを読み込んでいた場合、xlsm ファイルからフォーマットサイズを取得して入力されます。

⑧ “イメージ名フィールドの設定”では、以下のⅠ～Ⅲを選択してください。

※フォーマットエディタ互換のシートでは無効です。

Ⅰ. イメージ名フィールドを付加しない

：イメージファイル名を格納するフィールドを作成しません。

Ⅱ. 先頭にイメージ名フィールドを付加する

：フォーマットの先頭行にイメージファイル名を格納するフィールドを作成します。

Ⅲ. 末尾にイメージ名フィールドを付加する

：フォーマットの最終行にイメージファイル名を格納するフィールドを作成します。

⑨イメージ名フィールドの長さ：⑧で

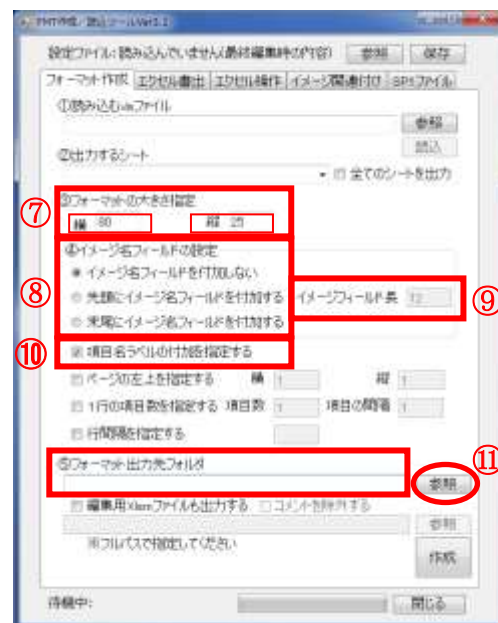
Ⅱ. 先頭にイメージ名フィールドを付加する Ⅲ. 末尾にイメージ名フィールドを付加する

を選択した場合、イメージファイル名を格納するフィールドの長さ（バイト数）を半角数字で指定します。

⑩ “項目名ラベルの設定”では、フォーマット作成用のワークシートの“項目名”を、フォーマットに反映する場合は、チェックを入れてください。

※フォーマットエディタ互換のシートでは無効です。

⑪ “フォーマット出力フォルダ”の右隣にある参照ボタンをクリックします。





⑫出力先フォルダを選択します。

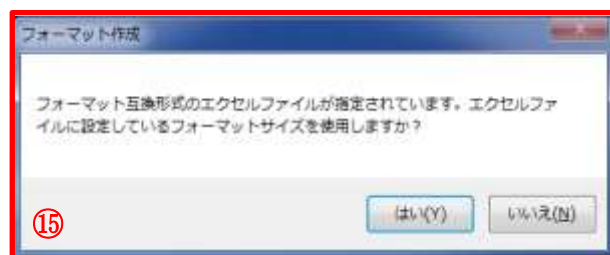
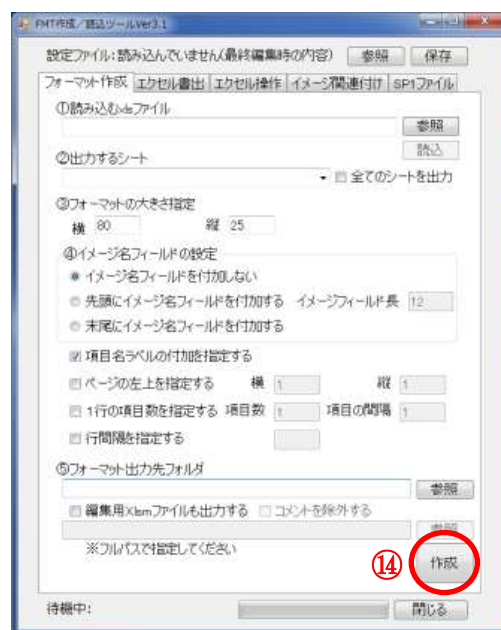
⑬OKボタンをクリックします。

⑭作成ボタンをクリックすると、①～⑬の設定に従って、フォーマットが作成されます。

⑮xlsm ファイルを読み込んでおり、“すべてのシートを出力”にチェックを入れている場合、⑮のメッセージがポップします。

エクセルファイルの設定サイズを適用する時
はいボタンを
全てのシートに“フォーマットの大きさ指定”
のサイズを適用する時
いいえボタンを
クリックしてください。

※既存のファイルに書き出しはできません。



ご参考 作成されるフォーマットのファイル名は、
“出力するシートを指定”で選択した“シート名”.fmt
です。

▼FMT 作成／読込ツール Ver3 を使って FMT ファイルから xls・xlsm ファイルを作成する

準備するもの

No.	名 称	備 考
1	[任意のファイル名].fmt	Super-Entry のフォーマットファイルです。 Super-Entry のフォーマットエディタで作成されたものは、通常、フォーマットディレクトリ (c:\¥SuperEntry¥FORMAT) に保存されます。

FMT ファイルを読み込んで、xls・xlsm ファイルを作成する手順

① “エクセル書出” タブをクリックします。

② 対象フォーマットファイルまたは SP1 ファイルの指定
処理対象のフォーマットファイルまたは SP1 ファイルを、
以下いずれかの方法で指定・消去します。

(a) ドラッグ&ドロップで枠に入れます。

・・・ファイル名が表示され、処理対象になります。

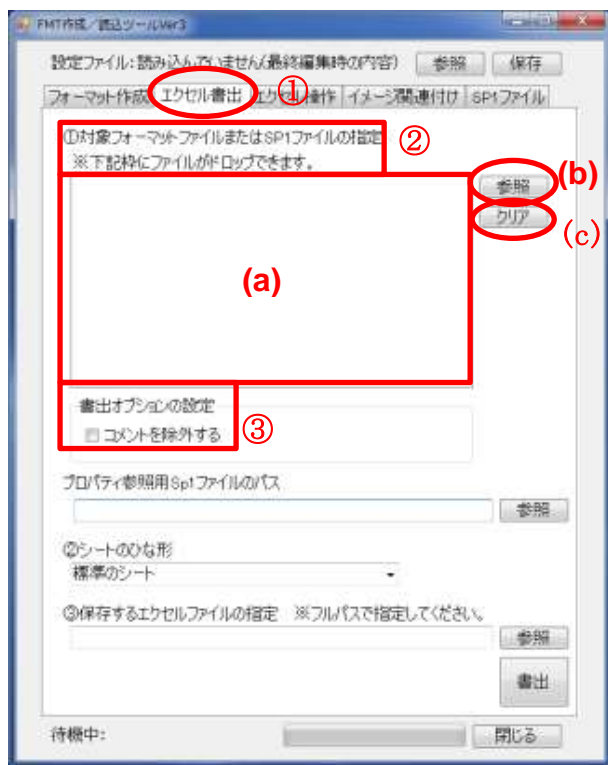
(b) 参照ボタン

・・・参照ダイアログを使ってファイルを指定します。
ファイル名が入力欄に記述されます。

※どちらの方法も複数の FMT ファイルを指定できますが、SP1
ファイルは単体での書出にのみ対応しています。

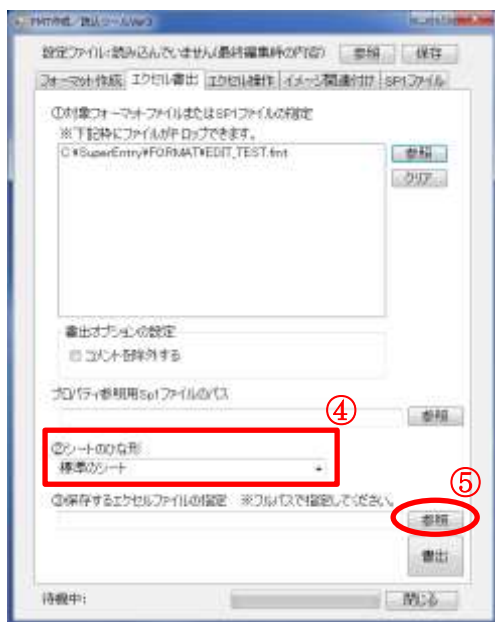
(c) クリアボタン

・・・入力欄のファイルリストを全て消去します。
誤ったファイルを選択した場合にご使用ください。



③ コメントを除外

チェックした場合、xls・xlsm ファイルにコメントフィールド
を出力しません。



④ “シートの一覧形”

▼をクリックすると、

ひな形シートの一覧が表示されます。

使用するひな形シートを選択します。

各シートの仕様は下記の表を参照してください。

※SP1 ファイルは「フォーマットエディタ互換」シートにのみ出力できます。

⑤ “保存するエクセルファイルの指定”の

右隣の参照ボタンをクリックします。

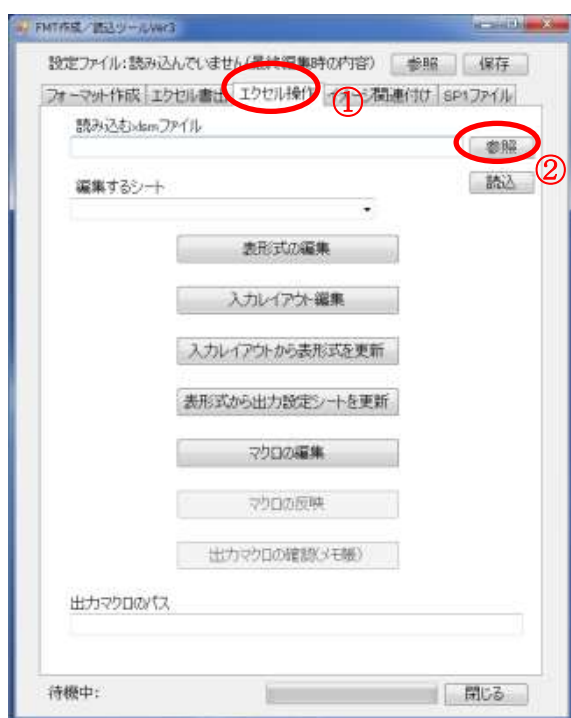
No.	ひな形シート・名称	内容
1	標準のシート	<p>標準のシートです。</p> <p>フォーマット設計に必要な、最低限の設定内容を持ちます。</p> <p>項目の配置に関する情報は持っていません。</p> <p>xls ファイルで出力します。</p>
2	拡張シート(デザイン補助)	<p>「標準のシート」に、簡単に項目を配置するためのカラムを足したシートです。</p> <p>フォーマット書出時は、「標準のシート」と同じ情報が出力されます。</p> <p>xls ファイルで出力します。</p>
3	フォーマットエディタ互換	<p>FMT ファイルに必要な、すべての情報を持つシートです。</p> <p>項目の配置情報や画像の関連付け等、すべての情報を出力します。</p> <p>xlsm ファイルで出力します。</p> <p>※SP1 ファイルはこのシートにのみ出力できます。</p>

▼FMT 作成／読込ツール Ver3 を使って xlsm ファイル(フォーマットエディタ互換シート)を編集する

準備するもの

No.	名 称	備 考
1	[任意のファイル名].xlsm	フォーマットエディタ互換シート準拠の xlsm ファイルです。 規格外のファイルは読み込めません。 テンプレートファイルがあるのでそちらを参考に作成していただくか、 本ツールを用いて作成した xlsm ファイルをご使用ください。

xlsm ファイルを読み込んで編集する手順

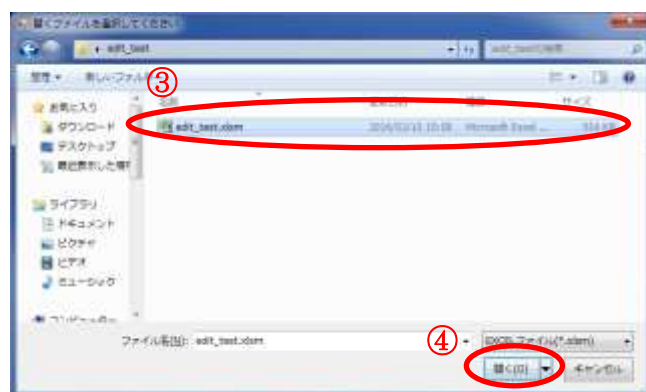


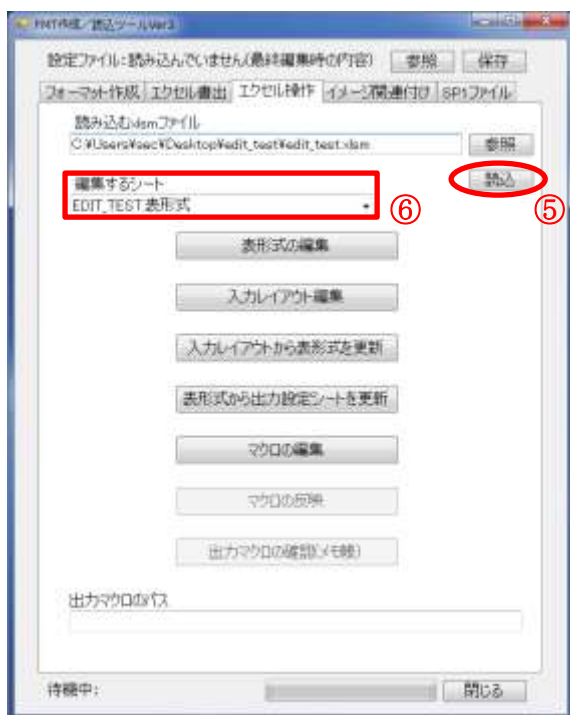
① “エクセル操作” のタブをクリックします

② “読み込む xlsm ファイル” の右隣にある参照ボタンをクリックします

③ 定義された xlsm ファイルを選択します。

④ 開くボタンをクリックします。





⑤読み込むボタンをクリックします。

その際、エクセルファイルが開きます。

⑥編集するシートを▼をクリックして選択します。

(a) 表形式の編集

エクセルファイルを開き、選択しているシートを編集します。

(b) 入力レイアウト編集

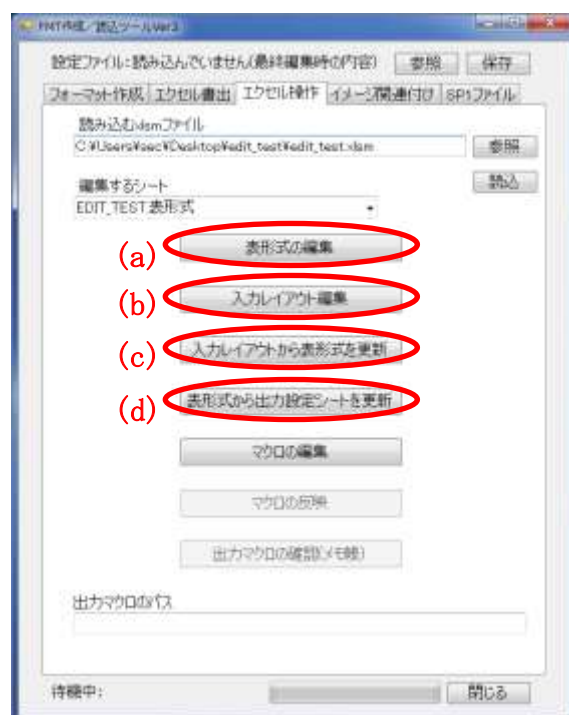
エクセルファイルを開き、視覚的なインターフェースを展開して編集します。

(c) 入力レイアウトから表形式を更新

“(b)入力レイアウト編集”で行った操作を選択しているシートに反映します。

(d) 表形式から出力設定シートを更新

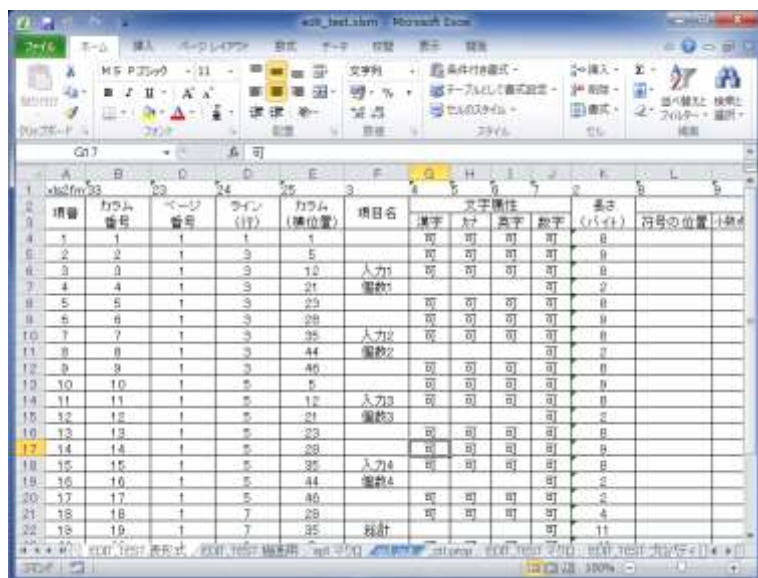
表形式の状態を、“出力設定シート(sp1.out)”に出力します。



次ページ以降では、上記の(a)・(b)・(c)・(d)について説明します。
マクロの編集・確認については、「マクロを設定する」をご参照ください。

表形式の編集

ページ番号やカラム(横位置)、引き渡し順などをエクセル上で編集することができます。



項目番号	カラム番号	ページ番号	ライン番号	カラム番号	項目名	文字種別	文字位置	文字長さ	文字位置
1	1	1	1	1	入力1	可	可	可	可
2	2	1	3	5	入力2	可	可	可	可
3	3	1	3	10	入力3	可	可	可	可
4	4	1	3	21	入力4	可	可	可	可
5	5	1	3	29	入力5	可	可	可	可
6	6	1	3	28	入力6	可	可	可	可
7	7	1	3	35	入力7	可	可	可	可
8	8	1	3	44	入力8	可	可	可	可
9	9	1	3	40	入力9	可	可	可	可
10	10	1	5	5	入力10	可	可	可	可
11	11	1	5	12	入力11	可	可	可	可
12	12	1	5	21	入力12	可	可	可	可
13	13	1	5	23	入力13	可	可	可	可
14	14	1	5	28	入力14	可	可	可	可
15	15	1	5	35	入力15	可	可	可	可
16	16	1	5	44	入力16	可	可	可	可
17	17	1	5	40	入力17	可	可	可	可
18	18	1	7	28	入力18	可	可	可	可
19	19	1	7	35	入力19	可	可	可	可

編集が完了したら、一度エクセルファイルを保存してください。

その後、FMT 作成/読込ツールの“エクセル操作”タブにある、“(d)表形式から出力設定シートを更新”ボタンをクリックすることで、“出力設定シート(sp1.out)”に反映します。

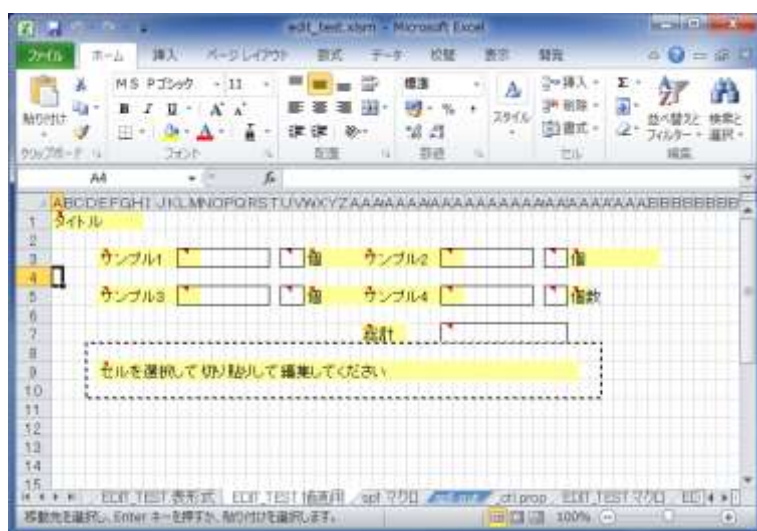
入力レイアウト編集

入力項目・コメントの位置を視覚的に編集することができます。

セルを切り貼りして編集してください。

編集が終了しましたら、一度エクセルファイルを保存してください。

FMT 作成/読込ツールの“エクセル操作”タブにある“(c)入力レイアウトから表形式を更新”ボタンをクリックすることで、“表形式シート”に変更を反映します。



項目番号	カラム番号	ページ番号	ライン番号	カラム番号	項目名	文字種別	文字位置	文字長さ	文字位置
1	1	1	1	1	入力1	可	可	可	可
2	2	1	3	5	入力2	可	可	可	可
3	3	1	3	10	入力3	可	可	可	可
4	4	1	3	21	入力4	可	可	可	可
5	5	1	3	29	入力5	可	可	可	可
6	6	1	3	28	入力6	可	可	可	可
7	7	1	3	35	入力7	可	可	可	可
8	8	1	3	44	入力8	可	可	可	可
9	9	1	3	40	入力9	可	可	可	可
10	10	1	5	5	入力10	可	可	可	可
11	11	1	5	12	入力11	可	可	可	可
12	12	1	5	21	入力12	可	可	可	可
13	13	1	5	23	入力13	可	可	可	可
14	14	1	5	28	入力14	可	可	可	可
15	15	1	5	35	入力15	可	可	可	可
16	16	1	5	44	入力16	可	可	可	可
17	17	1	5	40	入力17	可	可	可	可
18	18	1	7	28	入力18	可	可	可	可
19	19	1	7	35	入力19	可	可	可	可

表形式から出力設定シートを更新

“表形式シート”を参照して、“出力設定シート(sp1.out)”に“入力フォーム”の情報を出力します。

Super-Entry のテキスト出力時に複数項目をまとめたり、出力内容を固定したりすることが可能です。
設定後、“マクロの反映”を実行することで変更が適用されます。

(a) 項目名

入力項目の名前です。

(b) サイズ

“レコード位置(c)”から書き込まれる、文字列のサイズ(byte)です。サイズよりも長い文字列は切り詰められ、短い文字列はそのまま、レコード位置からコピーします。

(c) レコード位置

レコード先頭を1とした書き込み位置です。

(d) 初期値

フォームの内容を設定した値に上書きします。

“(e)処理”がsetの時に有効です。

(e) 処理

指定項目に対して行われる処理です。

設定は以下の表を参照してください。

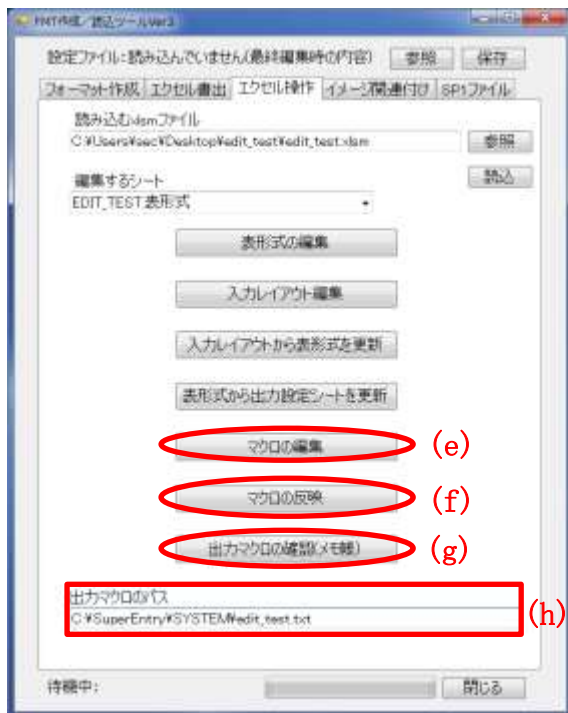
	項目名	サイズ	レコード位置	初期値	処理
1	入力1	8	1		copy
2	個数1	2	9		copy
4	入力2	8	11		copy
5	個数2	2	19		copy
6	入力3	8	21		copy
7	個数3	2	29		copy
8	入力4	8	31		copy
9	個数4	2	39		copy

(a) (b) (c) (d) (e)

No.	処理名称	備考
0	system	<p>出力処理に必要な設定を記述します。</p> <p>項目名を以下の名称にすることで、作成する出力マクロに反映します。</p> <p>出力形式……「csv」または「改行有り」と入力します。</p> <p>省略した時は「改行有り」になります。</p> <p>引用符……csv 出力時の引用符を指定します。</p> <p>区切り……csv 出力時の区切り文字を指定します。</p>
1	copy	<p>入力内容そのままを出力します。</p> <p>デフォルトではこの値です。</p> <p>※省略はできません</p>

2	combine	<p>複数項目をマージして出力します。</p> <p>この値を用いる時は、“(a) 項目名”をカンマ“,”で区切って指定してください。</p> <p>また、“(b) サイズ”をマージされる項目サイズ足した値に設定してください。</p> <p>固定の値を追加する際は、“-”のように、項目名同様カンマで区切って指定してください。</p> <p>入力例 1 :生年月日(年),生年月日(月),生年月日(日) →出力「20160130」</p> <p>入力例 2 :生年月日(年),"/",生年月日(月),"/",生年月日(日) →出力「2016/01/30」</p>
3	set	<p>フォームの内容を“(d) 初期値”の値で上書きします。</p> <p>この値を用いるときは、“(d) 初期値”を設定してください。</p>
4	br	<p>フォームの内容をスペースで上書きして出力します。</p>
5	copy_or_set	<p>対象項目に入力がなかった場合(空あるいはスペース)、“(d) 初期値”の値を出力します。</p> <p>入力があった場合は、入力内容そのままを出力します。</p> <p>この値を用いるときは、“(d) 初期値”を設定してください。</p>
6	combine_or_set	<p>対象項目すべてに入力がなかった場合(空あるいはスペース)、“(d) 初期値”の値を出力します。</p> <p>入力があった場合は、combine 同様、マージして出力します。</p> <p>この値を用いるときは、“(d) 初期値”を設定してください。</p>
7	table	<p>入力内容をチェックし、指定の文字で置き換えて出力します。</p> <p>指定に一致しない場合は、置き換え指定文字の最初の候補を出力します。</p> <p>“(b) サイズ”は置き換え文字に合わせてください。</p> <p>この値を用いるときは、“(d) 初期値”に置き換えの指定を設定します。</p> <p>以下の設定例を参照してください。</p> <p>設定例:「{0,1,2,3,4}[なし,明治,大正,昭和,平成]」 ※“(b) サイズ ”は 4 に変更してください。</p> <p>入力「1」→出力「明治」</p> <p>入力「3」→出力「昭和」</p> <p>入力「5」→出力「なし」</p>

マクロを設定する



(e) マクロの編集

選択しているエクセルファイルを開き、マクロの編集シートを展開します。

(f) マクロの反映

設定したマクロを、選択しているエクセルファイルに反映します。また、出力マクロの txt ファイルを生成します。

※ “(h) 出力マクロのパス” が空欄だと使用できません。

(g) 出力マクロの確認(メモ帳)

出力マクロの txt ファイルをメモ帳で開きます。

(h) 出力マクロのパス

指定したパスに出力マクロの txt ファイルを生成します。

“[出力するフォルダパス]¥ファイル名.txt” と入力してください。このファイルと出力パスは SuperEntry の入力時とテキスト出力時に参照されます。

マクロの編集

各項目は、セルごとの▼をクリックして選択することも、直接入力することもできます。設定後、“マクロの反映” を実行することで変更が適用されます。

(a). タイミング

設定したマクロの内容が実行されるタイミングです。

(b). 対象項目

“(c). 比較” の対象項目です。

(c). 比較

“(a). タイミング” を満たした時に行われる処理です。

(d). 比較の値

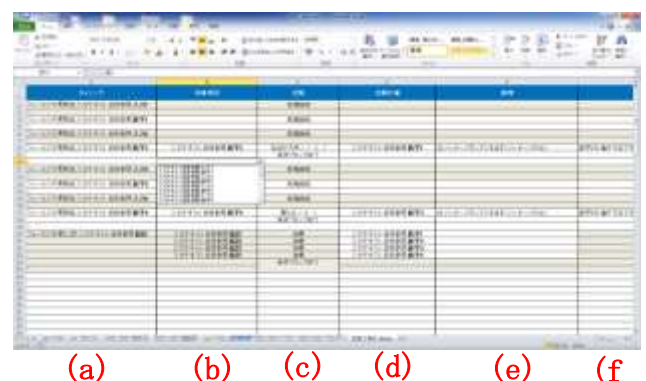
“(b). 対象項目” と比較される値です。

(e). 処理

“(c). 比較” の条件を満たした時に行われる処理です。

(f). 処理(値)

“(e). 処理” の内容によっては、値の設定が必要です。



マクロの反映

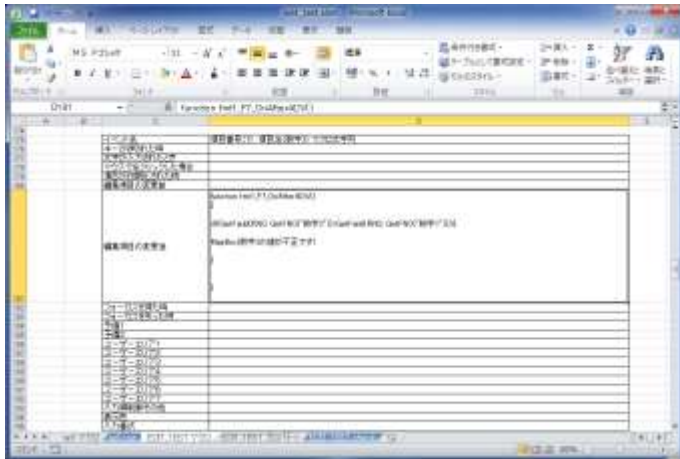
“マクロの反映”を実行することで、

“マクロの編集シート(シート名. check)”の内容を“シート名. マクロシート”に、

“出力設定シート(sp1.out)”の内容を“sp1. マクロシート”に反映されます。

また、“出力マクロのパス”で指定されたパスに出力マクロの txt ファイルを生成します。

この txt ファイルと保存パスは SuperEntry のテキスト出力時に参照されます。



(a)

(b)

“シート名. マクロシート”のサンプルです。

(a). イベント名

マクロが実行されるタイミングです。

(b). フォーマットマクロ文字列

実行されるマクロの内容と、それが設定されている項目番号(x)および項目名(y)です。

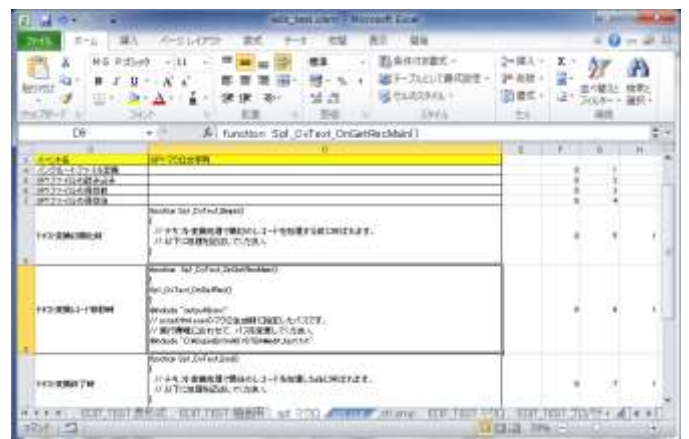
“sp1. マクロシート”のサンプルです。

(c). イベント名

インクルードファイルの定義およびマクロが実行されるタイミングです。

(d). SP1 マクロ文字列

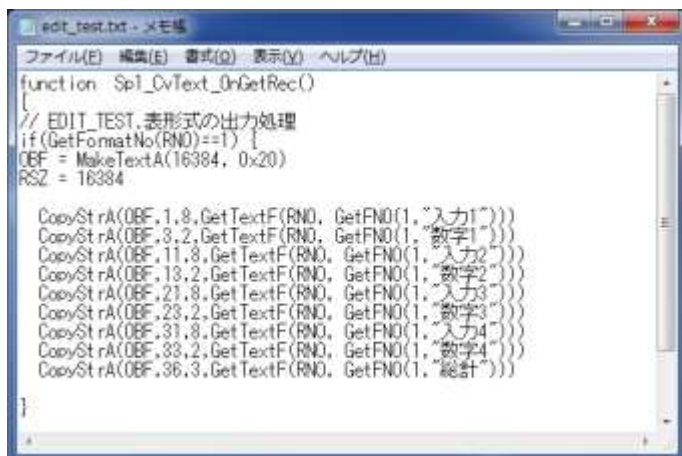
インクルードファイルの定義および実行されるマクロの内容です。



(c)

(d)

出力マクロの確認(メモ帳)



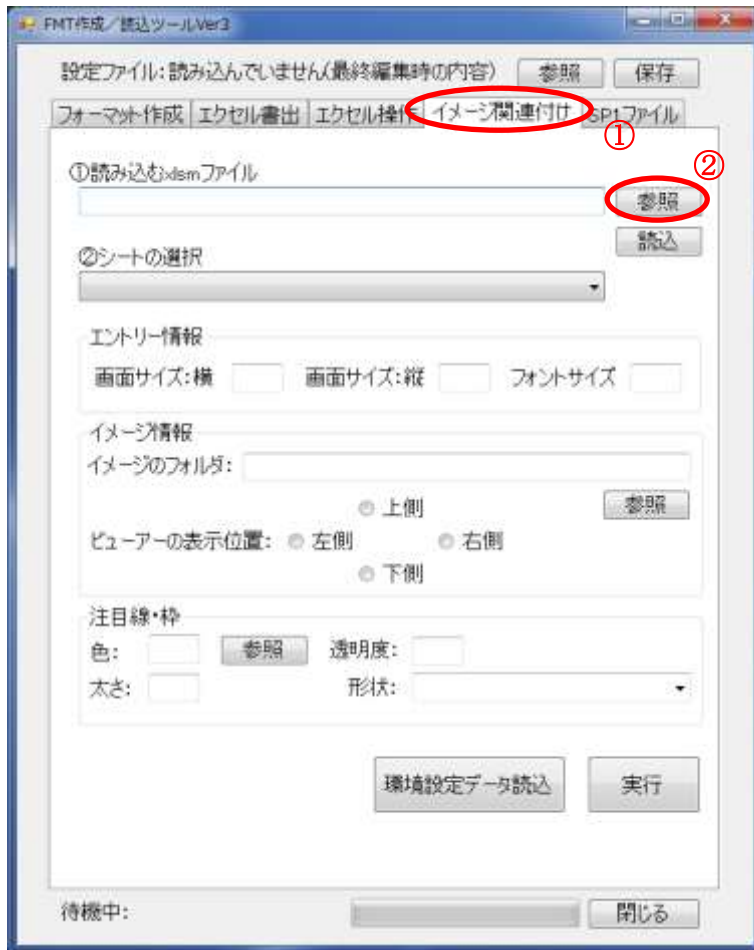
```
function Sp1_CvText_OnGetRec()
{
    // EDIT_TEST.表形式の出力処理
    if(GetFormatNo(RNO)==1) {
        OBF = MakeTextA(16384, 0x20)
        RSZ = 16384

        CopyStrA(OBF,1,8,GetTextF(RNO, GetFNO(1,"入力1")))
        CopyStrA(OBF,9,2,GetTextF(RNO, GetFNO(1,"数字1")))
        CopyStrA(OBF,11,8,GetTextF(RNO, GetFNO(1,"入力2")))
        CopyStrA(OBF,13,2,GetTextF(RNO, GetFNO(1,"数字2")))
        CopyStrA(OBF,21,8,GetTextF(RNO, GetFNO(1,"入力3")))
        CopyStrA(OBF,23,2,GetTextF(RNO, GetFNO(1,"数字3")))
        CopyStrA(OBF,31,8,GetTextF(RNO, GetFNO(1,"入力4")))
        CopyStrA(OBF,33,2,GetTextF(RNO, GetFNO(1,"数字4")))
        CopyStrA(OBF,36,3,GetTextF(RNO, GetFNO(1,"総計")))
    }
}
```

“(f)マクロの反映”で生成した、出力マクロが記載されている txt ファイルをメモ帳で確認することができます。

▼FMT 作成／読込ツール Ver3 を使って
xlsm ファイル(フォーマットエディタ互換シート)にイメージを関連付ける
※Super-Entry7 の連動が必要

xlsm ファイルを読み込んでイメージを関連付ける手順

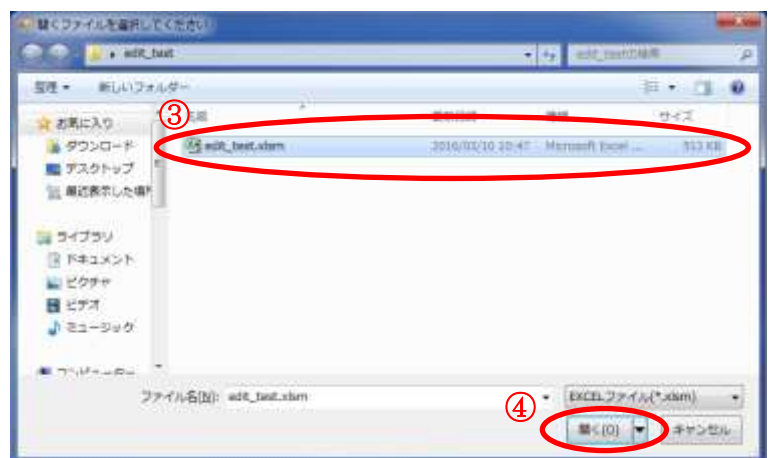


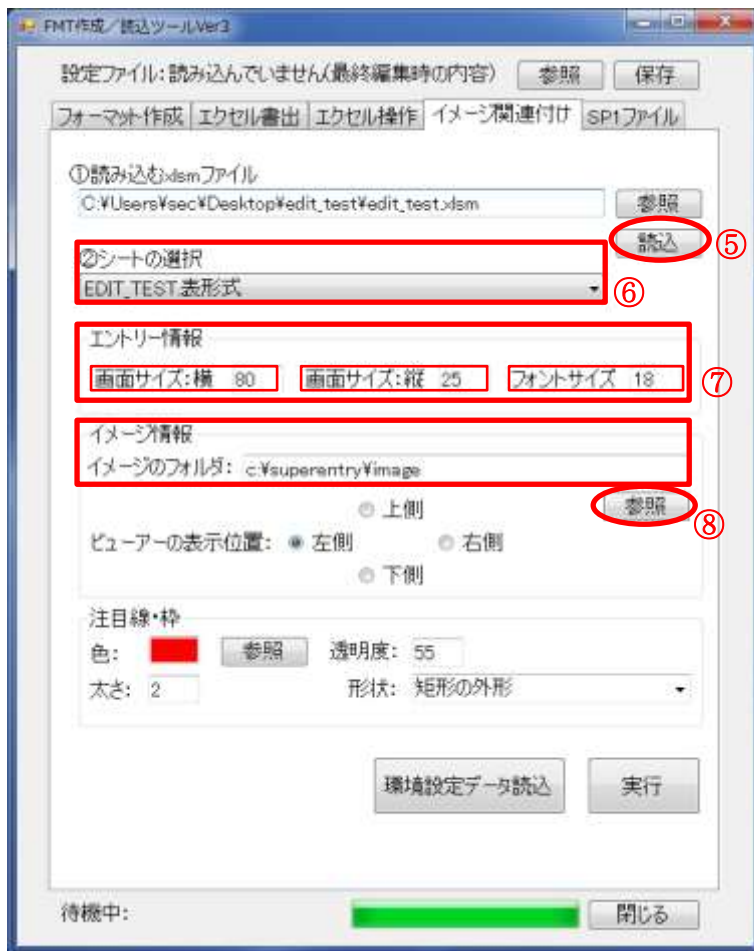
① “イメージ関連付け” のタブをクリックします。

② “読み込む xlsm ファイル” の右隣にある参照ボタンをクリックします。

③定義された xlsm ファイルを選択します。

④開くボタンをクリックします。





⑤ **読込** ボタンをクリックします。

⑥ 編集するシートを▼をクリックして選択します。

⑦ “エントリー情報” では、エントリー画面の表示設定を行います。

画面サイズ:横

画面サイズ:縦

フォントサイズ

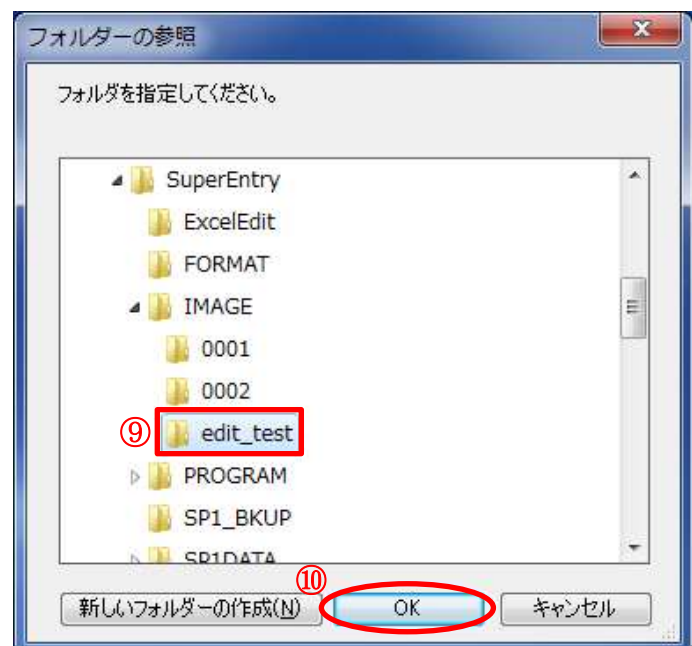
をそれぞれ指定します。

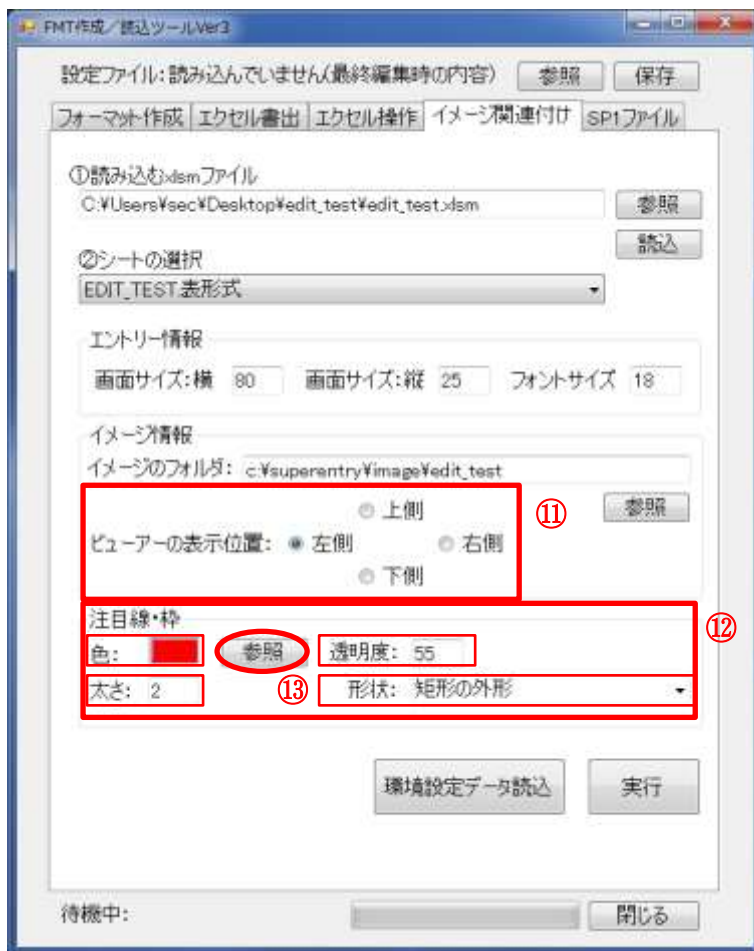
⑧ “イメージ情報” では、エントリー中に表示する画像が保存されているフォルダを指定します。

“イメージのフォルダ” の右下にある**参照** ボタンをクリックします。

⑨ 画像を読み込むフォルダを選択します。

⑩ **OK** ボタンをクリックします。





⑪ “ビューアーの表示位置”では、画像データを表示する位置を指定します。
上下左右のいずれかにチェックを入れます。

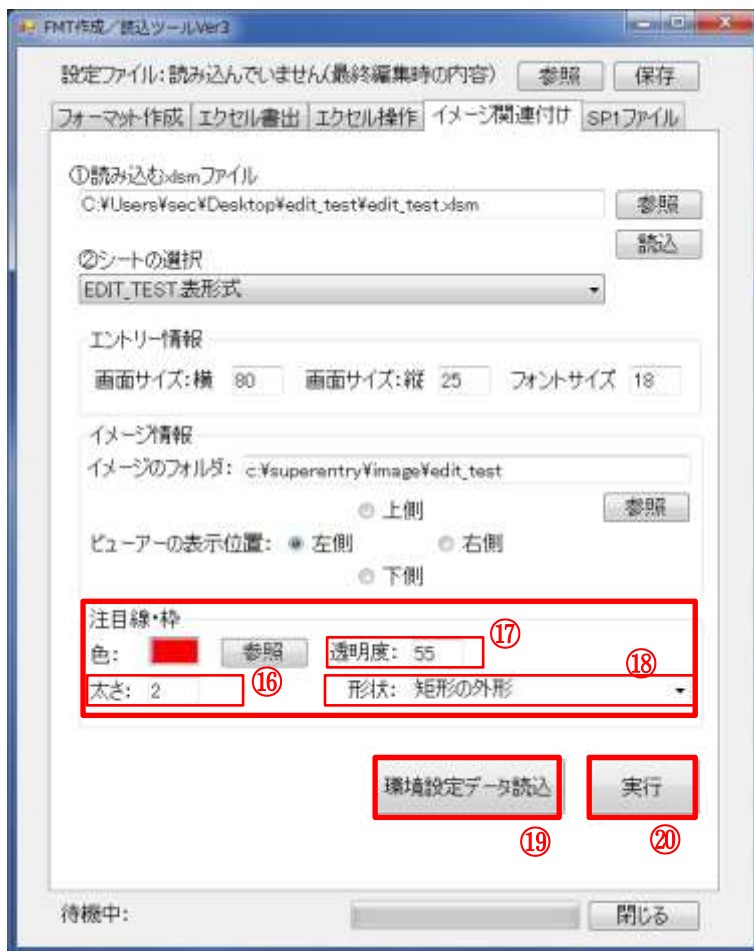
⑫ “注目線・枠”では、注目線の色・太さ・透明度・形状を指定します。

⑬ “色”の右隣にある参照ボタンをクリックします。

⑭ 注目線に指定したい色を選択します。

⑮ OKボタンをクリックします。





①⑥ “太さ” では、注目線・枠の太さを半角数字で指定します。

0～9 の範囲で指定可能で、大きな数字ほど太くなります。

①⑦ “透明度” では、塗りつぶし範囲の透明度を半角数字で指定します。①⑧ “形状” で塗りつぶしが行われるものを指定した場合に機能します。

0～255 の範囲で指定可能で、大きな数字ほど色が濃くなります。

①⑧ “形状” では、注目線・枠の形状を指定します。▼をクリックし、

矩形の外形

矩形内部を塗り潰し

矩形内部を塗りつぶし、外形も描画から選択します。

- ①⑨ “環境設定データ読み込み” では、Super-Entry から環境設定データを読み取り、
- “エントリー情報”
 - “ビューアーの表示位置”
 - “注目線・枠”
- を Super-Entry と同様に設定します。

- ②① 実行 ボタンをクリックすると、Super-Entry と連動し、①～①⑨の設定に従って画像の関連付けを行います。

これ以降の操作については、SuperEntry のマニュアルをご覧ください。

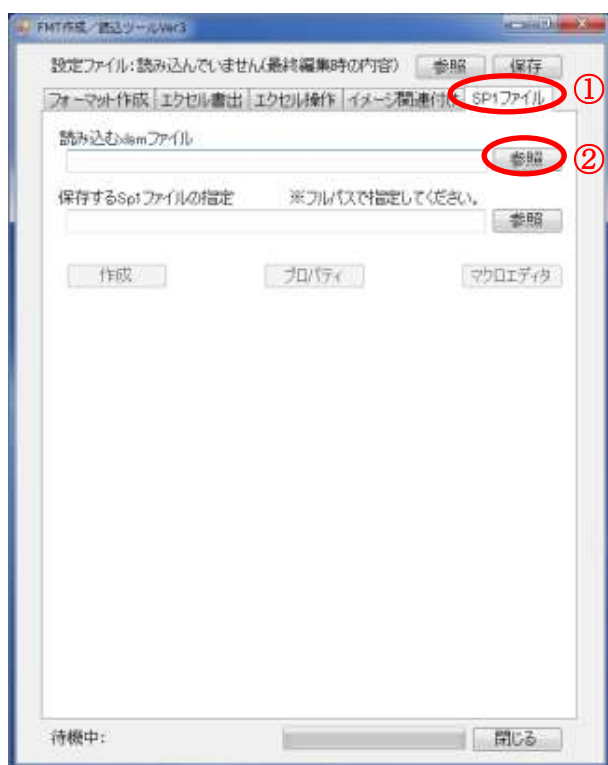
設定完了後、保存することで xslm ファイルに画像の関連付けデータが保存されます。

▼FMT 作成／読込ツール Ver3 を使って、
xlsm ファイル(フォーマットエディタ互換シート)から
Sp1 ファイルを作成する

準備するもの

No.	名 称	備 考
1	[任 意 の フ ァ イ ル 名]. xlsm	フォーマットエディタ互換シート準拠の xlsm ファイルです。 規格外のファイルは読み込めません。 テンプレートファイルがあるのでそちらを参考に作成していただくか、本ツールを用いて作成した xlsm ファイルをご使用ください。

xlsm ファイルを読み込んで Sp1 ファイルを作成する手順

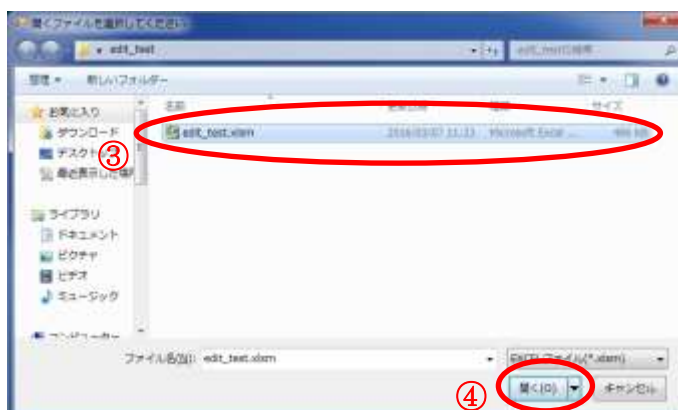


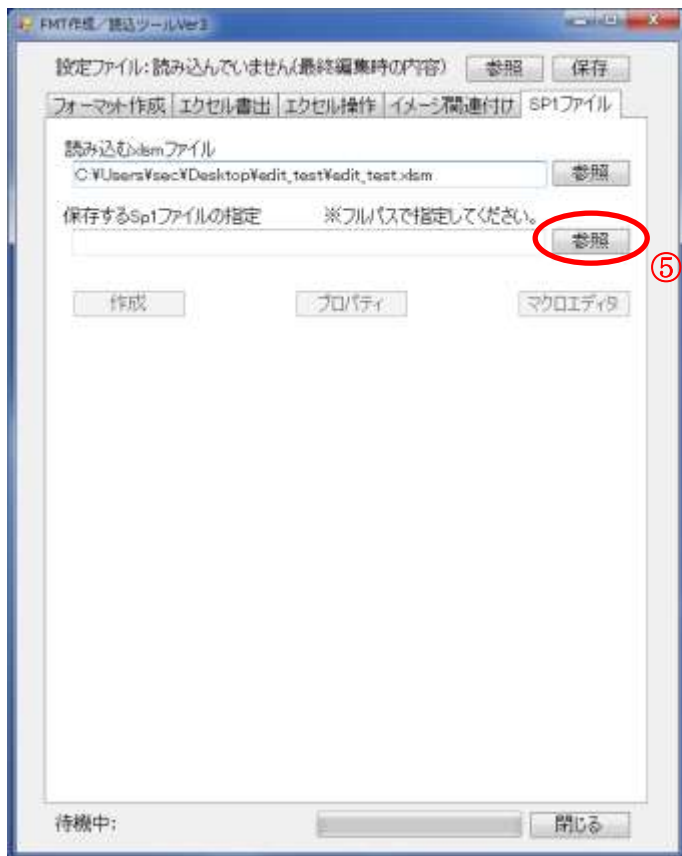
① “SP1 ファイル” のタブをクリックします。

② “読み込む xlsm ファイル” の右隣にある
参照ボタンをクリックします。

③ 定義された xlsm ファイルを選択します。

④ 開く ボタンをクリックします。





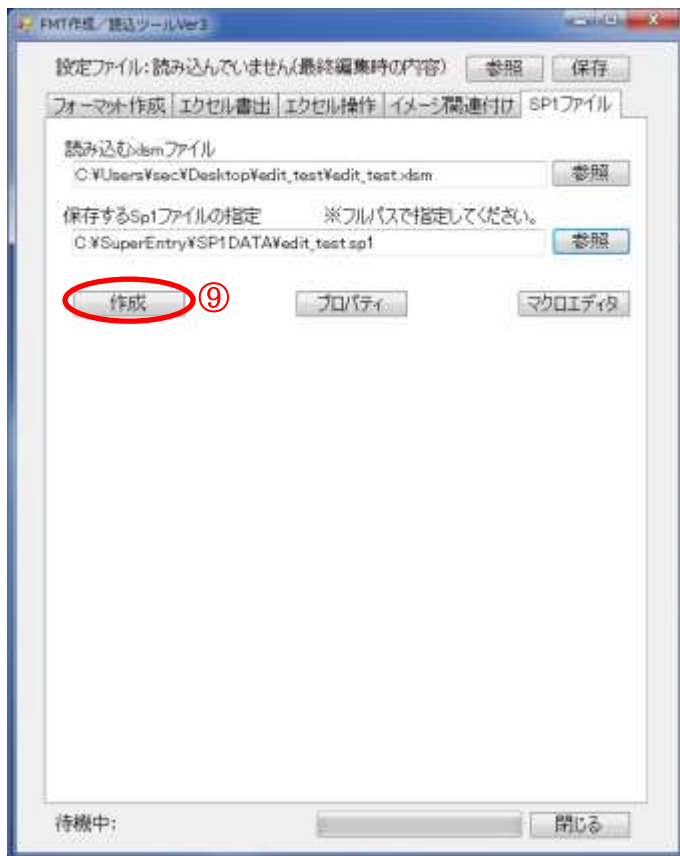
⑤ “保存する Sp1 ファイルの指定” の右隣にある参照ボタンをクリックします。

⑥ 保存するフォルダを開きます。

⑦ “保存したいファイル名” を入力します。

⑧ 開くボタンをクリックします。



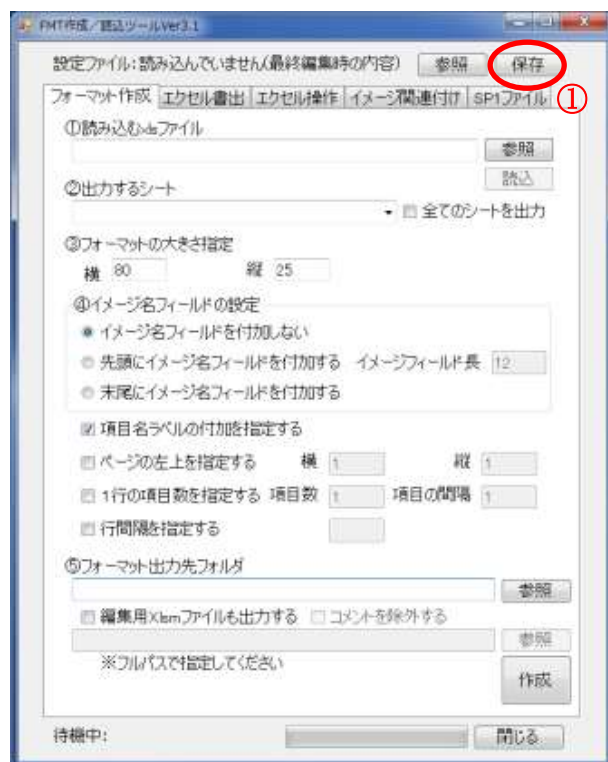


⑨作成ボタンをクリックすると、①～⑦の設定に従って、sp1 ファイルが出力されます。

▼FMT 作成／読込ツール Ver3 の設定を保存・読込

設定ファイルを保存する手順

設定ファイルを保存することで、読み込む xls ファイルなどの各入力フォーム、オプションの選択状態などを記録し、呼び出すことができます。



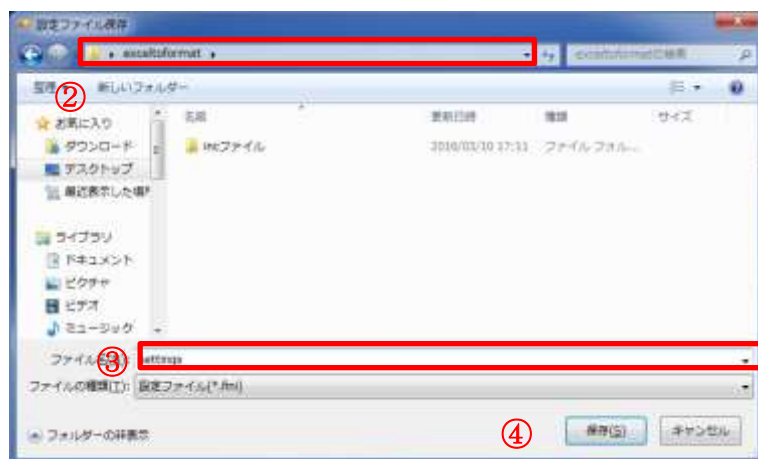
①保存ボタンをクリックします。

②保存したいフォルダを開きます。

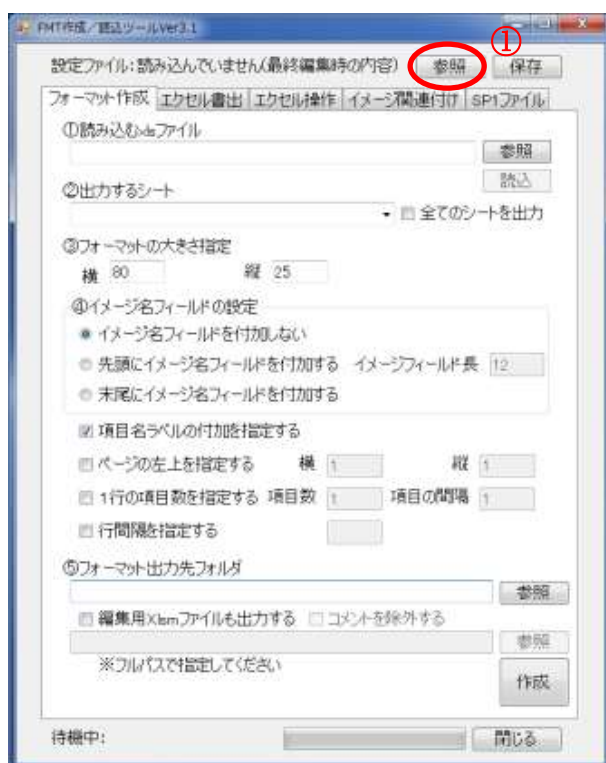
③保存したいファイル名を入力します。

④保存ボタンをクリックします。

これで、設定ファイルが保存されます。



設定ファイルを使用する手順



①参照ボタンをクリックします。

②設定ファイルを保存しているフォルダを開きます。

③設定ファイルをクリックします。

④開くボタンをクリックします。

これで、選択した設定ファイルが適用されます。



全てが終了しましたら、ツール画面右下の閉じるをクリックしてツールを閉じてください。

■FMT 作成／読込ツール Ver3 機能詳細

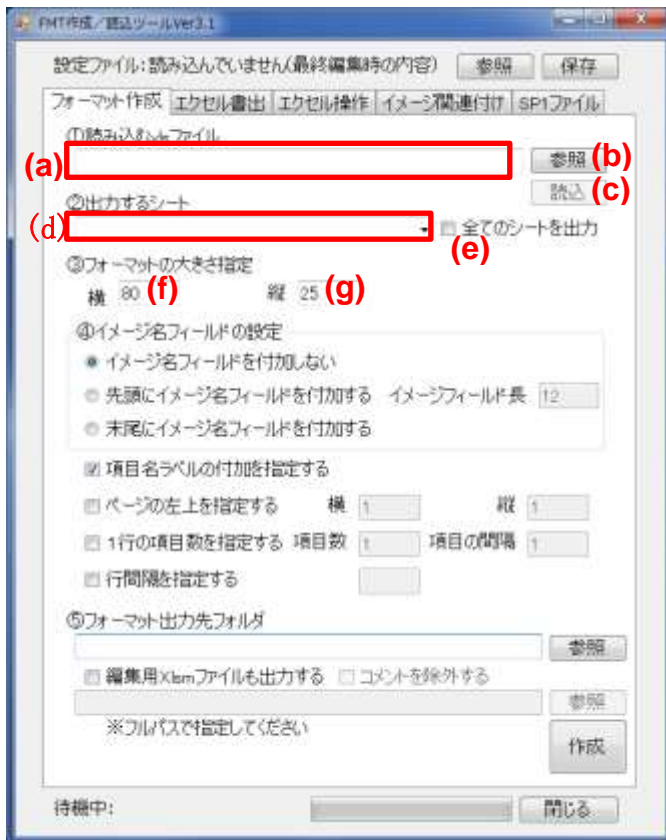
▼フォーマット作成

ひな形シートを使用して、必要な項目を記述した xls・xlsx ファイルを、FMT ファイルに変換します。

* xls・xlsx ファイルで受け取った仕様書を加工することで、簡単に FMT ファイルを作成することができます。

・・・項目が多い場合の FMT ファイルの作成などに便利です。

大まかな手順として①、②、③・・・と順を追っていくことで、変換を行うことができます。



①読み込む xls ファイル

(a) 入力欄

直接入力・コピーペーストなど文字でファイルを指定します。設定ファイルに残っている場合は、あらかじめ表示されます。

(b) 参照ボタン

参照ダイアログを使ってファイルを指定します。ファイルを指定するフルパスが入力欄に記述されます。このボタンでファイルを指定した場合は、同時に読み込みも行います。

(c) 読込ボタン

入力欄のファイルを読み込みます。シート名を確認し、②のシート選択欄に記述します。

※入力・読込、または参照のいずれかの動作を行う必要があります。

②出力するシート について

(d) シート選択	xls・xlsx ファイルのシート一覧から、処理を行うシートをひとつ選択します。
(e) 「全てのシートを出力」	これをチェックした場合、すべてのシートに対して処理を行います。

③フォーマットの大きさ指定 について

(f) 横	横方向の大きさを指定します。(単位：半角文字数)
(g) 縦	縦方向の大きさを指定します。(単位：半角文字数)

また、xlsx ファイルを読み込んでおり、“全てのシートを出力”にチェックが入っている場合、エクセルファイルの設定サイズと本項目の設定サイズのどちらを適用するか決定するメッセージが出ます。

(p) 入力欄	出力される FMT ファイルの書き出しフォルダを指定します。 指定方法は以下の通りです。 ・ 直接入力: 指定フォルダパスを直接入力します。 ・ 設定ファイルに残っている場合: 自動で入力されます。 ・ (p) ' 参照ボタン: 参照ダイアログ を使ってフォルダを指定します。
(q) 編集用 xlsx ファイルも出力する	チェックした場合、出力される FMT ファイルを元に “ エクセル操作 ” タブなどで編集可能な xlsx ファイルも出力します。
(r) コメントを除外する	チェックした場合、編集用 xlsx ファイルにコメントフィールドを出力しません。
(s) 入力欄	編集用 xlsx ファイルの出力先を指定します。 直接入力・コピーペーストなど文字でファイルを指定します。 新規ファイルのみ指定可能です。 ・ (s) ' 参照ボタン: 参照ダイアログ を使ってファイルを指定します。
(t) 作成ボタン	指定の条件で、ファイルを作成します。 また、“編集用 xlsx ファイルも出力する” にチェックを入れていた場合、“ エクセル書出 ” タブの “ 保存するエクセルファイルの指定 ” 欄、“ エクセル操作 ”、“ イメージ関連付け ”、“ SP1 ファイル ” タブの “ 読み込む xlsx ファイル ” 欄に出力したエクセルファイルのパスが入力されます。

ご参考 テンプレートファイルの種類によって、デザイン設定の処理が異なります。
詳しくは、以下の表のとおりです。

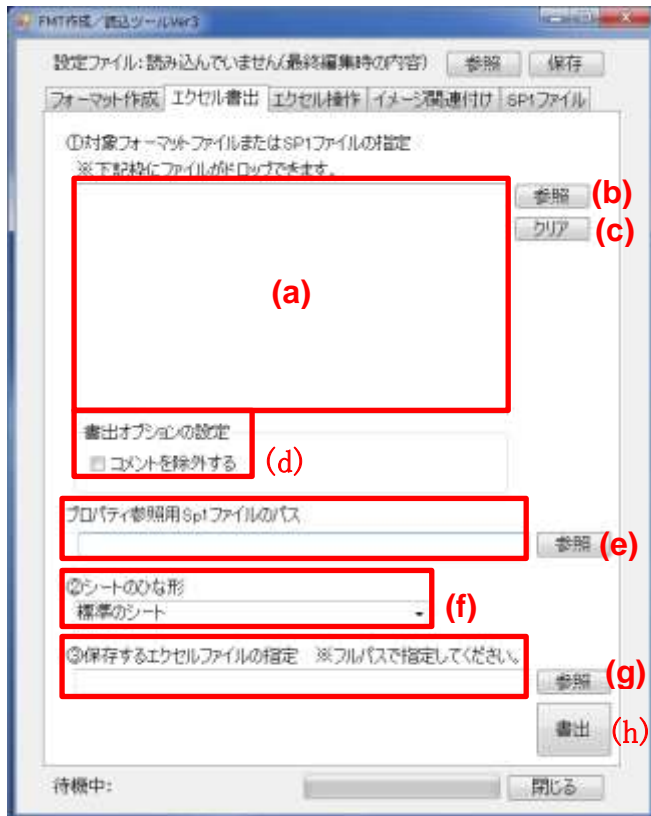
No.	テンプレートファイル 名称	フォーマットの 大きさ	イメージ フィールド	その他 デザイン設定
1	標準のシート	有効	有効	有効
2	拡張シート (デザイン補助)	有効	有効	有効
3	フォーマットエディタ 互換	有効 ツールとシートど ちらの値を優先す るか問い合わせる	無効 シートに記述する	無効 位置はシートの 記述を使用する

▼エクセル書き出し

FMT・SP1 ファイルからひな形ファイル (template.xlsm など) を参照し、xls・xlsm ファイルに変換します。

*xls・xlsm ファイルに書き出すことで、xls・xlsm ファイルで受け取った仕様書と対比させたりすることで、仕様の確認を容易に行えます。

大まかな手順としては①、②、③・・・と順を追っていくことで、変換を行うことができます。



①対象フォーマットファイルの指定

入力欄

処理対象の FMT・SP1 ファイルを、いずれかの方法で指定します。

- ・ ・ (a) ドラッグ&ドロップで枠に入れます。
- ・ ・ ・ ファイル名が表示され、処理対象になります。
- ・ ・ (b) 参照ボタン
- ・ ・ ・ 参照ダイアログを使ってファイルを指定します。ファイルを指定するフルパスが入力欄に記述されます。
(いずれの方法も複数の FMT ファイルを指定できますが、SP1 ファイルは単体での処理のみとなります)
- ・ ・ (c) クリアボタン
- ・ ・ ・ 枠内のファイルリストを消去します。

書き出しオプションの設定

(d) コメントを除外する

チェックした場合、コメントフィールドを出力しません。

プロパティ参照用ファイルのパス

(e) プロパティ参照用 Sp1 ファイルのパス

ファイルパスを入力するか、参照ボタンをクリックして参照ダイアログから Sp1 ファイルを指定することで、プロパティ情報を xlsm ファイルに出力します。

※このオプションは、「フォーマット互換シート」のみに対応しています。

②シートのひな形 について

(f) 選択欄	ひな形ファイルのシート一覧が表示され、元にするシートを選択します。
・ 標準のシート	旧「旧バージョン互換」互換のシートです。 フォーマット設計に必要な、最低限の設定内容を持ちます。 項目の配置に関する情報は持っていない。 xls ファイルで出力します。
・ 拡張シート(デザイン補助)	「標準のシート」に、簡単に項目を配置するためのカラムを足したシートです。 フォーマット書出時は、「標準のシート」と同じ情報が出力されます。 xls ファイルで出力します。
・ フォーマットファイル互換	FMT ファイルに必要な、すべての情報を持つシートです。 項目の配置情報や画像の関連付け等、すべての情報を出力します。 xlsm ファイルで出力します。 ※SP1 ファイルはこのシートにのみ出力できます。

③保存する xls・xlsm ファイルの指定 について

(g) 入力欄	出力する xls・xlsm ファイルのフォルダおよびファイル名を指定します。 指定方法は以下の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 設定ファイルに残っている場合：自動で入力されます。 ・ 参照ボタン：参照ダイアログを使って出力するフォルダを開き、ファイル名の欄に保存したいエクセルファイル名と拡張子を入力し、 開く ボタンをクリックしてください。 ※この時、新規ファイルを指定してください。 既存のファイルには出力できません。
(h) 書出ボタン	指定の条件で、xls・xlsm ファイルを作成します。 また、“エクセル操作”、“イメージ関連付け”、“SP1 ファイル” タブの“読み込む xlsm ファイル” 欄に出力したエクセルファイルのパスが入力されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ FMT ファイル 1 つに対して、書出された xls・xlsm ファイルの 1 シートが割り当てられます。(シート名は FMT ファイル名となっています) ※xlsm ファイルは完成したファイルが出力されますが、 xls ファイルはエクセルを起動しファイルを開きます。 開いた xls ファイルを一度保存してください。 書き出した段階では内容が保存されません。

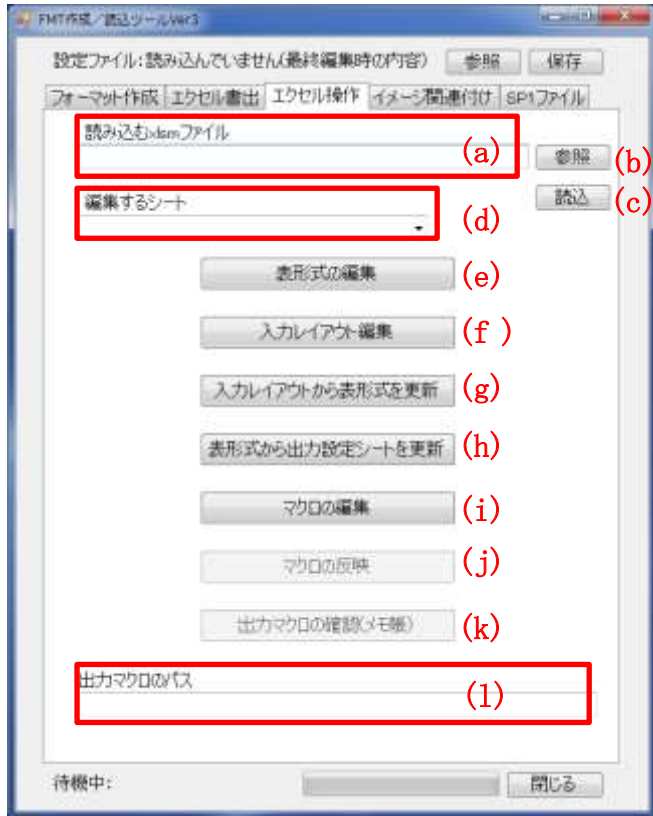
ご注意 保存する xls・xlsm ファイルの名前に、ひな形ファイル(template.xlsm など)と同じ名前を指定することはできません
エラーメッセージが表示された場合、ファイル名を変更してください。

▼エクセル操作

項目を記述した xlsx ファイルを編集します。

*Excel 上でフォーマットを編集することができます。編集してから FMT ファイルに変換すると便利です。

大まかな手順として①、②、③・・・と順を追っていくことで、編集を行うことができます。



①読み込む xlsx ファイル

(a)入力欄

直接入力・コピーペーストなど文字でファイルを指定します。設定ファイルにも残っている場合は、あらかじめ入力されます。

(b)参照ボタン

参照ダイアログを使ってファイルを指定します。ファイルを指定するフルパスが入力欄に記述されます。

(c)読込ボタン

入力欄のファイルを読み込みます。シート名を確認し、②のシート選択欄に記述します。また、読み込み時にエクセルを開きます。

※読込を行う必要があります。

②編集するシート について

(d) シート選択	xlsx ファイルのシート一覧から、処理を行うシートをひとつ選択します。
-----------	--------------------------------------

③各種ボタン について

※”出力マクロの確認(メモ帳)”を除き、クリック時に選択しているエクセルファイルを開きます。

(e) 表形式の編集	シートを編集します。 直接書き換えることができます。
(f) 入力レイアウト編集	視覚的なインターフェースを展開して編集します。 セルを切り貼りして編集することができます。
(g) 入力レイアウトから表形式を更新	“入力レイアウト編集”で行った操作を表形式シートに反映します。 実行前に、一度エクセルファイルを保存してください。
(h) 表形式から出力設定シートを更新	エクセルファイルの全ての表形式のシートから、引き渡し順が 1 以上の項目について、フォーマット名順、引き渡し順に並び替えて、“出力設定シート(sp1.out)”に出力します。 実行前に、一度エクセルファイルを保存してください。

(i) マクロの編集	“マクロの編集シート(シート名. check)”を展開します。
(j) マクロの反映	<p>“出力設定シート(sp1. out)”の内容を “ sp1. マクロ”に、 “マクロの編集シート(シート名. check)”の内容を“シート名. マクロ”に反映します。</p> <p>また、“(1)出力マクロのパス”で指定されたパスへ出力マクロの txt ファイルを生成します。 このファイルの出力パスは“sp1. マクロ”の“テキスト変換レコード移動時”の項目に入力され、Super-Entry のテキスト出力時に参照されます。 txt ファイルを別のパスに移動する場合、該当項目を編集してください。</p> <p>実行前に、一度エクセルファイルを保存してください。 ※“(1)出力マクロのパス”が入力されていないと使用できません。</p>
(k) 出力マクロの確認(メモ帳)	<p>“(j)マクロの反映”時に生成した txt ファイルを開き、 出力マクロを確認します。 ※“(1)出力マクロのパス”が入力されていないと使用できません。</p>

④出力マクロのパス について

(1) 出力マクロのパス	<p>ここに入力したアドレスに出力マクロの txt ファイルを生成します。 “[出力するフォルダパス] ¥ファイル名. txt” と入力してください。</p>
--------------	---

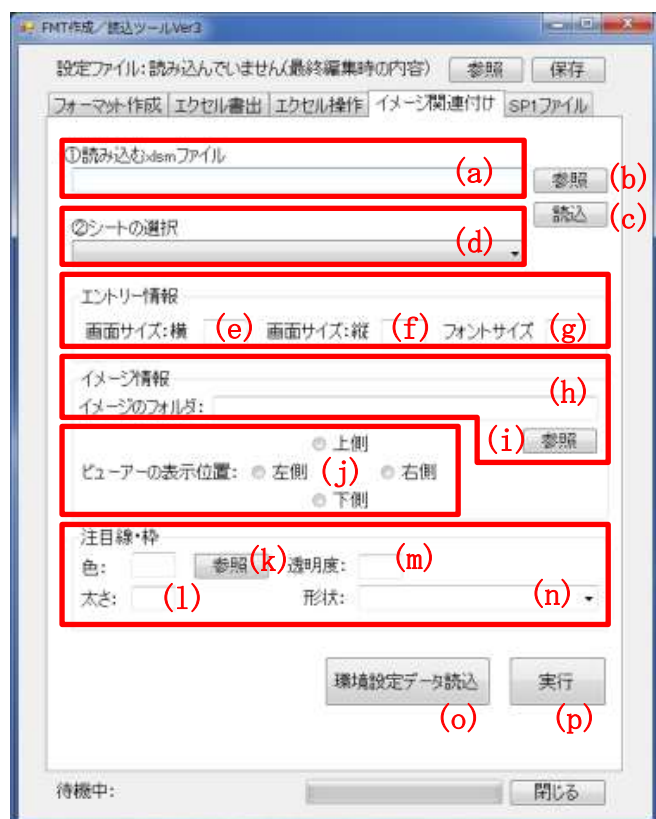
▼イメージ関連付け

※Super-Entry 7 の連動が必要

必要な項目を記述した xlsx ファイルに、イメージを関連付けます。

*FMT ファイルに変換せずにイメージを関連付けることができます。

大まかな手順として①、②、③と順を追っていくことで、イメージ関連付けを行うことができます。



①読み込む xlsx ファイル

(a)入力欄

直接入力・コピーペーストなど文字でファイルを指定します。設定ファイルにも残っている場合は、あらかじめ入力されます。

(b)参照ボタン

参照ダイアログを使ってファイルを指定します。ファイルを指定するフルパスが(a)入力欄に記述されます。

(c)読込ボタン

入力欄のファイルを読み込みます。シート名を確認し、②のシート選択欄に記述します。

※入力・参照いずれの場合も読込を行う必要があります。

②シートの選択 について

(d) シート選択	xlsx ファイルのシート一覧から、処理を行うシートをひとつ選択します。
-----------	--------------------------------------

③エントリー情報 について

(e) 画面サイズ:横	エントリー画面の横と縦のサイズを指定します。 <u>数字</u> で入力してください。
(f) 画面サイズ:縦	
(g) フォントサイズ	エントリー画面のフォントサイズを指定します。 <u>数字</u> で入力してください。

④イメージ情報 について

(h) 入力欄	関連付ける画像が保存されているフォルダを指定します。 直接入力・コピーペーストなど文字でフォルダを指定します。
(i) 参照ボタン	参照ダイアログを使ってフォルダを指定します。 フォルダパスが(h)入力欄に記述されます。

⑤ビューアーの表示位置 について

(j) ビューアーの表示位置	エントリー時に表示する画像の位置を指定します。 上下左右のいずれかを指定してください。
----------------	--

⑥注目線・枠 について

(k) 色	カラーパレットを使って注目線・枠の色を指定します。右隣の参照ボタンをクリックしてカラーパレットを開き、色を指定したら OK ボタンをクリックします。
(l) 太さ	注目線・枠の太さを指定します。 <u>半角数字</u> で入力してください。 0～9 の範囲で指定可能で、大きな数字ほど太くなります。
(m) 透明度	塗りつぶし範囲の透明度を半角数字で指定します。(n) 形状で塗りつぶしが行われるものを指定した場合に機能します。 <u>半角数字</u> で入力してください。 0～255 の範囲で指定可能で、大きな数字ほど色が濃くなります。
(n) 形状	注目線・枠の形状を指定します。▼をクリックして選択します。
・ 矩形の外形	矩形の枠のみが表示されます。
・ 矩形内部を塗り潰し	矩形の塗り潰しのみが表示されます。(m) 透明度が反映されます。
・ 矩形内部を塗りつぶし、 外形も描画	矩形の枠と塗り潰しが表示されます。(m) 透明度が反映されます。

⑦環境設定データ読込 について

(o) 環境設定データ読込	環境設定データ読込ボタンをクリックすることで、インストールされている Super-Entry から環境設定を読み込み、“エントリー情報”、“ビューアーの表示位置”、“注目線・枠” 欄に反映します。
---------------	--

⑧実行 について

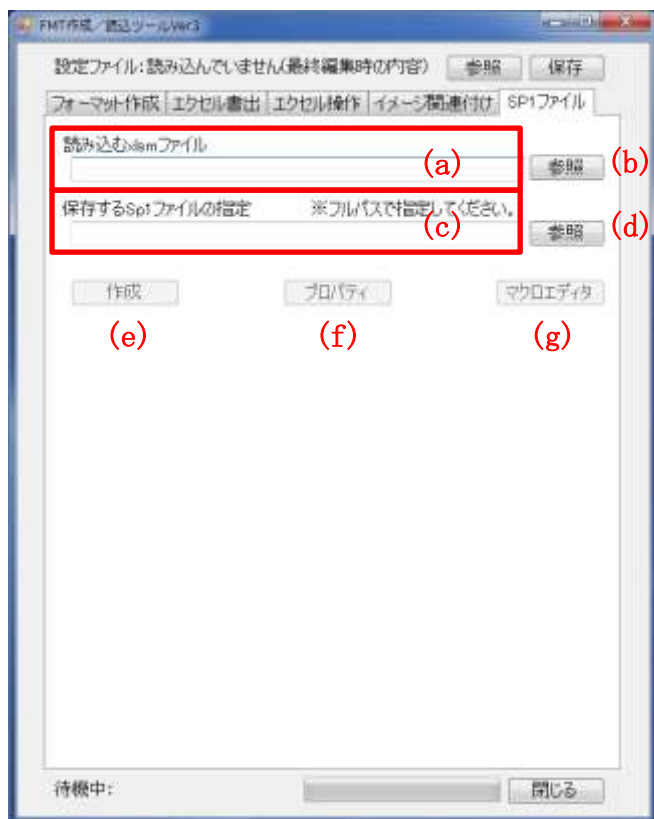
(e) 実行	実行ボタンをクリックすることで、Super-Entry を起動して画像の関連付けを行うことができます。
--------	---

▼SP1 ファイル

必要な項目を記述した xlsx ファイルから、SP1 ファイルを出力します。

*FMT ファイル生成をスキップして作成することができます。x

大まかな手順として①、②、③と順を追っていくことで、出力・設定を行うことができます。



①読み込む xlsx ファイル

(a) 入力欄

直接入力・コピーペーストなど文字でファイルを指定します。設定ファイルにも残っている場合は、あらかじめ入力されます。

(b) 参照ボタン

参照ダイアログを使ってファイルを指定します。ファイル名が入力欄に記述されます。

②Sp1 ファイルのパス

(c) 入力欄

直接入力・コピーペーストなど文字でファイルを指定します。設定ファイルにも残っている場合は、あらかじめ入力されます。

(d) 参照ボタン

参照ダイアログを使ってファイルを指定します。ファイル名が入力欄に記述されます。

③各種ボタン について

(e) 作成	SP1 ファイルを出力します。 “(a)読み込む xlsx ファイル” 欄と、”(c)Sp1 ファイルのパス” 欄の両方が入力されている必要があります。
(f) プロパティ	“(c)Sp1 ファイルのパス” に入力されている SP1 ファイルのプロパティを開きます。 ※Super-Entry のインストールが必要です。
(g) マクロエディタ	“(c)Sp1 ファイルのパス” に入力されている SP1 ファイルのマクロエディタを開きます。 ※Super-Entry のインストールが必要です。

ご注意 “Sp1 ファイルのパス”に既存のファイルを指定している場合、上書きされます。ご注意ください。

■エクセルシートについて

フォーマット書出時、

- ・標準のシート
- ・拡張シート(デザイン補助)
- ・フォーマットエディタ互換

からいずれかのシートを選択しますが、これらは全て”フォーマット作成”に使用できます。

各シートの特徴やレイアウトについては、以下の通りです。

・標準のシート

特徴

フォーマット設計に必要な、最低限の設定内容を持ちます。

項目の配置に関する情報は持っていないため、フォーマット作成の際は

- ① フォーマット作成のデザイン設定でおおよその配置を行う
- ② フォーマットエディタで位置調整を行う

ことで配置をデザインします。

シートレイアウト

【標準のシート シートレイアウト】

列名	項目名称	説明	許容設定値（太字は設定値）
A	項番	項目の順番を指定します。	【半角数値】
B	長さ(バイト)	項目の長さを指定します。 (単位：バイト) ※漢字の場合：1文字2バイト ※符号を付ける場合：1バイト付加	【半角数値】
C	項目名	項目に名前を付けます。入力時に表示されるほか、イメージ分割などで項目の識別に使用します。	項目長は <u>13</u> バイト以内。漢字半角混在可能。
D・E	文字属性 (漢字・カナ)	入力可能・格納可能な文字の種類を指定します。 優先項目の指定を行った際、キーの入力設定が切り替わります。	可 / 有 / ○ ……入力・格納が可能であることを設定します。 優 / ◎ ……優先項目を設定したいとき、指定します。 【上記設定値以外の場合】 ……入力不可を表します。

【標準のシート シートレイアウト（つづき）】

列名	項目名称	説明	許容設定値（太字は設定値）
F	文字属性(英字)	英字の入力可否、優先項目を指定します。 優先項目の指定を行った際、キーの入力設定が切り替わります。	可 / 有 / ○ ……入力・格納が可能であることを設定します。 優 / ◎ ……優先項目を設定したいとき、指定します。 AZ ……大文字を優先したいとき、指定します。 az ……小文字を優先したいとき、指定します。 【上記設定値以外の場合】 ……入力不可を表します。
G	文字属性(数字)	数字の入力可否、優先項目を指定します。 優先項目の指定を行った際、キーの入力設定が切り替わります。	可 / 有 / ○ ……入力・格納が可能であることを設定します。 優 / ◎ ……優先項目を設定したいとき、指定します。 NS ……数字およびスペースを入力したいときに、指定します。 【上記設定値以外の場合】 ……入力不可を表します。
H	符号の位置	数値項目で、符号をどの位置に格納・出力するかを設定します。	前 / 有 ……数字の前に符号を置きます。 後 ……数字の後ろに符号を置きます。 【上記設定値以外の場合】 ……符号なしと設定します。
I	小数点以下の桁数	小数点以下の数値を許容する場合、その桁数を指定します。	【半角数値】 ……小数点以下の桁数。 【空白】 ……小数点なしとします。
J	パディング	長さに満たないデータに対して、どのような操作を行うかを指定します。	0 ……0 で埋めます。 数0 ……データが数字である場合に、 0 で埋めます。 【上記設定値以外の場合】 ……スペースで埋めます。

【標準のシート シートレイアウト（つづき）】

列名	項目名称	説明	許容設定値（太字は設定値）
K	モジュラスチェック	モジュラスチェックを行う際の 各パラメータ 「自己検査」 「集計方法」 「補数指定」 「重み」 「例外指定 1」 「例外指定 2」 を、カンマ区切りで指定します。	以下の書式のテキスト 「自己検査」 9 / 10 / 11 / A 「集計方法」 一括 / 分割 「補数指定」 補数 / 非補数 「重み」 重み 「例外指定 1」 例外処理 1 「例外指定 2」 例外処理 2
L	計算	数値項目の計算結果を入れる場合、計算式を指定します。	表：表示 非：非表示 【計算文字列】 例： 1+2+3 ・・・ 1 項目目と 2 項目目 3 項目目の 値を合計するという意味です。
M	ベリファイ(ベリ)	ベリファイの要不要を設定します。	要 有 ……ベリファイを行います。 空 ……ベリファイ時に値が無かった場合、 この項目をスキップします。 【上記設定値以外の場合】 ……ベリファイを行いません。
N	種類	入力項目の種類を指定します。	コ ……コメント項目 フ ……フィルター 固 ……設定された値、または文字を 指定項目に自動的に表示します。 レ ……入力するレコード番号を表示します。 編集も可能です。 イ n (n=1, 2, 3・・・) ……イメージエントリ時イメージファイル名 フ 1 フ A ……次レコード移動時の フォーマット切り替え識別子 区 ……入力時フォーマット切り替え区分 イ P イ 2 ……イメージエントリ時の イメージファイルのフルパス フ 2 フ B ……入力時フォーマット切り替え用 フォーマット名称

【標準のシート シートレイアウト（つづき）】

列名	項目名称	説明	許容設定値（太字は設定値）
O	引き渡し順	納品ファイルの格納順を指定します。	【半角数字】
P	詰め	長さに満たないデータに対して、寄せる方向を指定します。	<p>右 ……右に詰めます。</p> <p>NR ……データが数字である場合に、 右に詰めます。</p> <p>無 ……パディング・詰め操作を行いません。</p> <p>【上記設定値以外の場合】 ……左に詰めます。</p>
Q	タブストップ(タブ)	タブキーを押したとき、止まる入力項目を設定します。	<p>** ……タブキー押下時に止まる入力項目であると指定します。</p> <p>【上記設定値以外の場合】 ……タブキー押下時に止まりません。</p>
R	オートリリース(JP)	全桁入力時に Enter キーを不要にする設定を行います。	<p>** ……全桁入力すると次の項目へ移動します。</p> <p>【上記設定値以外の場合】 ……全桁入力時も Enter キーが必要です。</p>
S	デュープ(DU)	データのコピー(デュープ)に関する設定を行います。	<p>D 1 ……同一のフォーマットの直前レコードより値をコピーして次項目へ移動します。</p> <p>D 2 ……直前レコードよりデュープ可能な場合は値をコピーして次項目へ移動します。</p> <p>S K ……入力をおこなわず、次項目へ移動します。</p> <p>【上記設定値以外の場合】 ……デュープを行いません。</p>
T	必須入力	入力内容のチェックを行います。	<p>全 ……全桁入力を指示する。</p> <p>部 ……1 文字以上の入力を指示する。</p> <p>ME ……未入力・あるいは全桁の入力を指示する。</p> <p>【上記設定値以外の場合】 ……入力内容のチェックを行いません。</p>

【標準のシート シートレイアウト（つづき）】

列名	項目名称	説明	許容設定値（太字は設定値）
U	初期値	入力項目の初期値、およびコメントの内容を入力します。	任意のテキスト
V	備考① (入力チェック)	範囲チェックを指示するテキストを入力します。	指 ：指定値 外 ：指定値外 字指 ：指定文字のみ 字外 ：指定文字以外 範囲値 ：指定された範囲値
W	備考②(その他)	現在は使いません。	

・拡張シート(デザイン補助)

特徴

標準のシートに、簡単に項目を配置するための情報を足したシートです。

改行数、項目名のコメント有無、項目間隔が項目ごとに指定でき、

アンケートなどの項目が多数ある場合のフォーマット作成に有効です。

※シートの記載より、フォーマット作成のデザイン設定が優先されます。

※標準のシートとの差分：カラム番号・改行数・コメント有無・間隔・入力順

シートレイアウト

【拡張シート(デザイン補助) シートレイアウト】

列名	項目名称	説明	許容設定値（太字は設定値）
A	項番	項目の順番を指定します。	【半角数値】
B	カラム番号	フォーマット作成時に、作成したフォーマットの実際の項目番号を出力します。	※非入力項目
C	長さ(バイト)	項目の長さを指定します。 (単位：バイト) ※漢字の場合：1文字2バイト ※符号を付ける場合：1バイト付加	【半角数値】
D	項目名	項目に名前を付けます。入力時に表示されるほか、イメージ分割などで項目の識別に使用します。	13バイト以内。漢字半角混在可能。

【拡張シート(デザイン補助) シートレイアウト (つづき)】

列名	項目名称	説明	許容設定値 (太字は設定値)
E	改行数	対象項目の次の項目を配置する際に、改行を行う数を指定します。	【半角数値】 ……改行数を指定します。 0 で改行なし、 2 で空行が1行できます。 改 頁 ……改ページします。
F	コメント有無	項目名をコメント項目として、画面に配置します。	有 ……コメント項目を配置します。 【上記設定値以外の場合】 ……コメント項目を配置しません。
G	間隔	対象項目の次の項目を配置する際に、横方向の間隔を指定します。	【半角数値】
H・I	文字属性 (漢字・カナ)	入力可能・格納可能な文字の種類を指定します。 優先項目の指定を行った際、キーの入力設定が切り替わります。	可 / 有 / ○ ……入力・格納が可能であることを設定します。 優 / ◎ ……優先項目を設定したいとき、指定します。 【上記設定値以外の場合】 ……入力不可を表します。
J	文字属性(英字)	英字の入力可否、優先項目を指定します。 優先項目の指定を行った際、キーの入力設定が切り替わります。	可 / 有 / ○ ……入力・格納が可能であることを設定します。 優 / ◎ ……優先項目を設定したいとき、指定します。 AZ ……大文字を優先したいとき、指定します。 az ……小文字を優先したいとき、指定します。 【上記設定値以外の場合】 ……入力不可を表します。
K	文字属性(数字)	数字の入力可否、優先項目を指定します。 優先項目の指定を行った際、キーの入力設定が切り替わります。	可 / 有 / ○ ……入力・格納が可能であることを設定します。 優 / ◎ ……優先項目を設定したいとき、指定します。 NS ……数字およびスペースを入力したいときに、指定します。 【上記設定値以外の場合】 ……入力不可を表します。

【拡張シート(デザイン補助) シートレイアウト (つづき)】

列名	項目名称	説明	許容設定値 (太字は設定値)
L	符号の位置	数値項目で、符号をどの位置に格納・出力するかを設定します。	<p>前 有 ……数字の前に符号を置きます。</p> <p>後 ……数字の後ろに符号を置きます。</p> <p>【上記設定値以外の場合】 ……符号なしと設定します。</p>
M	小数点以下の桁数	小数点以下の数値を許容する場合、その桁数を指定します。	<p>【半角数値】 ……小数点以下の桁数。</p> <p>空白 ……小数点なしとします。</p>
N	パディング	長さに満たないデータに対して、どのような操作を行うかを指定します。	<p>0 ……0 で埋めます。</p> <p>数 0 ……データが数字である場合に、 0 で埋めます。</p> <p>【上記設定値以外の場合】 ……スペースで埋めます。</p>
O	モジュラスチェック	<p>モジュラスチェックを行う際の 各パラメータ</p> <p>「自己検査」 「集計方法」 「補数指定」 「重み」 「例外指定 1」 「例外指定 2」 を、カンマ区切りで指定します。</p>	<p>以下の書式のテキスト</p> <p>「自己検査」 9 / 10 / 11 / A 「集計方法」 一括 / 分割 「補数指定」 補数 / 非補数 「重み」 重み 「例外指定 1」 例外処理 1 「例外指定 2」 例外処理 2</p>
P	計算	数値項目の計算結果を入れる場合、計算式を指定します。	<p>表：表示 非：非表示</p> <p>【計算文字列】 例：1+2+3 ・・・ 1 項目目と 2 項目目 3 項目目の 値を合計するという意味です。</p>
Q	ベリファイ(ベリ)	ベリファイの要不要を設定します。	<p>要 有 ……ベリファイを行います。</p> <p>空 ……ベリファイ時に値が無かった場合、 この項目をスキップします。</p> <p>【上記設定値以外の場合】 ……ベリファイを行いません。</p>

【拡張シート(デザイン補助) シートレイアウト (つづき)】

列名	項目名称	説明	許容設定値 (太字は設定値)
R	種類	入力項目の種類を指定します。	<p>コ ……コメント項目</p> <p>フ ……フィラー</p> <p>固 ……設定された値、または文字を 指定項目に自動的に表示します。</p> <p>レ ……入力するレコード番号を表示しま す。編集も可能です。</p> <p>イ n (n=1, 2, 3・・・)</p> <p>……イメージエントリ時イメージファイル名</p> <p>フ1 フA……次レコード移動時の フォーマット切り替え識別子</p> <p>区 ……入力時フォーマット切り替え区分</p> <p>イP イ2</p> <p>……イメージエントリ時の イメージファイルのフルパス</p> <p>フ2 フB</p> <p>……入力時フォーマット切り替え用 フォーマット名称</p>
S	引き渡し順	納品ファイルの格納順を指定し ます。	【半角数字】
T	詰め	長さに満たないデータに対し て、寄せる方向を指定します。	<p>右 ……右に詰めます。</p> <p>NR ……データが数字である場合に、 右に詰めます。</p> <p>無 ……パディング・詰め操作を行いません。</p> <p>【上記設定値以外の場合】 ……左に詰めます。</p>
U	入力順	項目の順、出力順とは別に、入 力の順番を指定します。	【半角数字】
V	タブストップ(タ ブ)	タブキーを押したとき、止まる 入力項目を設定します。	<p>* *</p> <p>……タブキー押下時に止まる入力項目である と指定します。</p> <p>【上記設定値以外の場合】 ……タブキー押下時に止まりません。</p>

【拡張シート(デザイン補助) シートレイアウト (つづき)】

列名	項目名称	説明	許容設定値 (太字は設定値)
W	オートリリース (JP)	全桁入力時に Enter キーを不要にする設定を行います。	<p>* *</p> <p>……全桁入力時に Enter キーを不要にします。</p> <p>【上記設定値以外の場合】</p> <p>……全桁入力時も Enter キーが必要です。</p>
Y	必須入力	入力内容のチェックを行います。	<p>全</p> <p>……全桁入力を指示する。</p> <p>部</p> <p>……1 文字以上の入力を指示する。</p> <p>ME</p> <p>……未入力・あるいは全桁の入力を指示する。</p> <p>【上記設定値以外の場合】</p> <p>……入力内容のチェックを行いません。</p>
Z	初期値	入力項目の初期値、およびコメントの内容を入力します。	任意のテキスト
AA	備考①(入力チェック)	範囲チェックを指示するテキストを入力します。	<p>指：指定値</p> <p>外：指定値外</p> <p>字指：指定文字のみ</p> <p>字外：指定文字以外</p> <p>範囲値：指定された範囲値</p>
AB	備考②(その他)	現在は使いません。	

・フォーマットエディタ互換

特徴

フォーマットファイルの表示内容と同じ内容を持つシートです。

ページ番号、ライン、カラムなど、フォーマットの情報を全て残す場合は、このシートを利用します。

・仕様確認

・フォーマット内容の一括修正

等に有効です。

※フォーマット作成のデザイン設定は無効(フォーマットの大きさ指定を除く)となり、シートの記載が使用されます。

※標準のシートとの差分：

追加分：カラム番号、ページ番号、ライン、カラム、入力順、パレットNo、

分割No、D番、DBイメージ、正規表現、串刺しID（分割用）、元項番（分割用）、備考

消去分：備考①、備考②

シートレイアウト

【フォーマットエディタ互換 シートレイアウト】

列名	項目名称	説明	許容設定値（太字は設定値）
A	項番	項目の順番を指定します。	【半角数値】
B	カラム番号	フォーマット作成時に、作成したフォーマットの実際の項目番号を出力します。	※非入力項目
C～E	ページ番号・ライン(行)・カラム(横位置)	項目の配置場所を指定します。	【半角数値】
F	項目名	項目に名前を付けます。入力時に表示されるほか、イメージ分割などで項目の識別に使用します。	13 バイト以内。漢字半角混在可能。
G・H	文字属性 (漢字・カナ)	入力可能・格納可能な文字の種類を指定します。 優先項目の指定を行った際、キーの入力設定が切り替わります。	可 / 有 / ○ ……入力・格納が可能であることを設定します。 優 / ◎ ……優先項目を設定したいとき、指定します。 【上記設定値以外の場合】 ……入力不可を表します。
I	文字属性(英字)	英字の入力可否、優先項目を指定します。 優先項目の指定を行った際、キーの入力設定が切り替わります。	可 / 有 / ○ ……入力・格納が可能であることを設定します。 優 / ◎ ……優先項目を設定したいとき、指定します。 AZ ……大文字を優先したいとき、指定します。 az ……小文字を優先したいとき、指定します。 【上記設定値以外の場合】 ……入力不可を表します。
J	文字属性(数字)	数字の入力可否、優先項目を指定します。 優先項目の指定を行った際、キーの入力設定が切り替わります。	可 / 有 / ○ ……入力・格納が可能であることを設定します。 優 / ◎ ……優先項目を設定したいとき、指定します。 NS ……数字およびスペースを入力したいときに、指定します。 【上記設定値以外の場合】 ……入力不可を表します。

【フォーマットエディタ互換 シートレイアウト（つづき）】

列名	項目名称	説明	許容設定値（太字は設定値）
K	長さ(バイト)	項目の長さを指定します。 (単位：バイト) ※漢字の場合：1文字2バイト ※符号を付ける場合：1バイト 付加	【半角数値】
L	符号の位置	数値項目で、符号をどの位置に 格納・出力するかを設定します。	前 有 ……数字の前に符号を置きます。 後 ……数字の後ろに符号を置きます。 【上記設定値以外の場合】 ……符号なしと設定します。
M	小数点以下の桁 数	小数点以下の数値を許容する場 合、その桁数を指定します。	【半角数値】 ……小数点以下の桁数。 空白 ……小数点なしとします。
N	パディング	長さに満たないデータに対し て、どのような操作を行うかを 指定します。	0 ……0で埋めます。 数0 ……データが数字である場合に、 0で埋めます。 【上記設定値以外の場合】 ……スペースで埋めます。
O	モジュラスチェ ック	モジュラスチェックを行う際の 各パラメータ 「自己検査」 「集計方法」 「補数指定」 「重み」 「例外指定1」 「例外指定2」 を、カンマ区切りで指定します。	以下の書式のテキスト 「自己検査」 9 / 10 / 11 / A 「集計方法」 一括 / 分割 「補数指定」 補数 / 非補数 「重み」 重み 「例外指定1」 例外処理 1 「例外指定2」 例外処理 2
P	計算	数値項目の計算結果を入れる場 合、計算式を指定します。	表：表示 非：非表示 【計算文字列】 例： 1+2+3 ・・・1項目目と2項目目3項目目の 値を合計するという意味です。

【フォーマットエディタ互換 シートレイアウト（つづき）】

列名	項目名称	説明	許容設定値（太字は設定値）
Q	ベリファイ(ベリ)	ベリファイの要不要を設定します。	<p>要 有 ……ベリファイを行います。</p> <p>空 ……ベリファイ時に値が無かった場合、この項目をスキップします。</p> <p>【上記設定値以外の場合】 ……ベリファイを行いません。</p>
R	種類	入力項目の種類を指定します。	<p>コ ……コメント項目</p> <p>フ ……フィラー</p> <p>固 ……設定された値、または文字を指定項目に自動的に表示します。</p> <p>レ ……入力するレコード番号を表示します。編集も可能です。</p> <p>イ n (n=1, 2, 3・・・) ……イメージエントリ時イメージファイル名</p> <p>フ1 フA……次レコード移動時の フォーマット切り替え識別子</p> <p>区 ……入力時フォーマット切り替え区分</p> <p>イP イ2 ……イメージエントリ時の イメージファイルのフルパス</p> <p>フ2 フB ……入力時フォーマット切り替え用 フォーマット名称</p>
S	引き渡し順	納品ファイルの格納順を指定します。	【半角数字】
T	詰め	長さに満たないデータに対して、寄せる方向を指定します。	<p>右 ……右に詰めます。</p> <p>NR ……データが数字である場合に、右に詰めます。</p> <p>無 ……パディング・詰め操作を行いません。</p> <p>【上記設定値以外の場合】 ……左に詰めます。</p>
U	入力順	項目の順、出力順とは別に、入力の順番を指定します。	【半角数値】

【フォーマットエディタ互換 シートレイアウト（つづき）】

列名	項目名称	説明	許容設定値（太字は設定値）
V・W	パレットNo・分割No	イメージ分割の際に、分割されたフォーマットに設定されます。 この項目は設定を変更しないでください。	※通常非入力項目
X	タブストップ(タブ)	タブキーを押したとき、止まる入力項目を設定します。	<p>* *</p> <p>……タブキー押下時に止まる入力項目であると指定します。</p> <p>【上記設定値以外の場合】</p> <p>……タブキー押下時に止まりません。</p>
Y	オートリリース(JP)	全桁入力時に Enter キーを不要にする設定を行います。	<p>* *</p> <p>……全桁入力した時、次の項目へ移動します。</p> <p>【上記設定値以外の場合】</p> <p>……全桁入力時も Enter キーが必要です。</p>
Z	デュープ(DU)	データのコピー(デュープ)に関する設定を行います。	<p>D 1</p> <p>……同一のフォーマットの直前レコードより値をコピーして次項目へ移動します。</p> <p>D 2</p> <p>……直前レコードよりデュープ可能な場合は値をコピーして次項目へ移動します。</p> <p>S K</p> <p>……入力をおこなわず、次項目へ移動します。</p> <p>【上記設定値以外の場合】</p> <p>……デュープを行いません。</p>
AA	必須入力	入力内容のチェックを行います。	<p>全</p> <p>……全桁入力を指示する。</p> <p>部</p> <p>……1文字以上の入力を指示する。</p> <p>ME</p> <p>……未入力・あるいは全桁の入力を指示する。</p> <p>【上記設定値以外の場合】</p> <p>……入力内容のチェックを行いません。</p>
AB	入力チェック(範囲チェック)	範囲チェックを指示するテキストを入力します。	<p>指：指定値</p> <p>外：指定値外</p> <p>字指：指定文字のみ</p> <p>字外：指定文字以外</p> <p>範囲値：指定された範囲値</p>

【フォーマットエディタ互換 シートレイアウト (つづき)】

列名	項目名称	説明	許容設定値 (太字は設定値)
AC	D 番	設定するデータベースの番号を入力します。	【半角数値】1 以上
AD	D B	データベースのキーを指定します。	【半角数値のみ】キー=1 D1=2/D2=3/D3=4/D4=5/以降 D+1
AE	イメージ	関連付けられたイメージの座標などの情報を、テキストで指定します。	以下の書式のテキスト [左上 X]:[左上 Y]:[角度]:[倍率]:[注目線 X1]/[注目線 Y1]:[注目線 X2]/[注目線 Y2]
AF	正規表現	正規表現チェックの内容を、テキストで指定します。	正規表現文字列
AG	初期値	入力項目の初期値、およびコメントの内容を入力します。	任意のテキスト
AH	串刺し ID(分割用)	イメージ分割の際に、分割されたフォーマットに設定されます。 この項目は設定を変更しないでください。	※通常非入力項目
AI	元項番(分割用)	イメージ分割の際に、分割されたフォーマットに設定されます。 この項目は設定を変更しないでください。	※通常非入力項目
AJ	備考	範囲チェックを指示するテキストを入力します。	指：指定値 外：指定値外 字指：指定文字のみ 字外：指定文字以外 範囲値：指定された範囲値

■複数の FMT ファイルを結合する

excel2fmt.exe を MS-DOS プロンプトから呼び出すことで 10 個までのフォーマットファイルを結合することができます。

使い方

excel2fmt.exe [保存先 FMT] [読み込み FMT1] [読み込み FMT2]・・・[読み込み FMTx]

(x=10 以下)

例

FMT1. fmt

FMT2. fmt

FMT3. fmt 3つのフォーマットファイルについて

- ・FMT1. fmt, FMT2. fmt, FMT3. fmt の順番で FMT-ALL. fmt に結合する

場合、以下のコマンドを発行します。

excel2fmt.exe FMT-ALL. fmt FMT1. fmt FMT2. fmt FMT3. fmt

■ エラーメッセージについて

フォーマット変換ツールの使用中、エラーが生じることがあります。

エラーは、

- ・画面の設定値
- ・シートまたはフォーマットの設定値

のいずれかに分類されます。

・画面の設定値のエラー

画面の設定値のエラーは、ポップアップで表示されます。

すべての問題を解決するまでは、処理に移行することができません。

エラーメッセージと対処法は、以下の表を参考にしてください。

分類	エラーメッセージ	対処
フォーマット作成	設定値に数字以外が入力されています。	設定値を確認してください。
	エクセルファイルが指定されていません。	「①読み込む xls ファイル」を指定してください。
	エクセルファイルが見つかりません。	「①読み込む xls ファイル」を確認してください。
	出力するシートが選択されていません。	「②出力するシート」を確認してください。
	フォーマットのサイズが指定されていません。	「③フォーマットの大きさ指定」を確認してください。
	フォーマットのサイズに 0 が指定されています。	「③フォーマットの大きさ指定」を 1 以上に指定してください。
	フォーマットの出力先フォルダが指定されていません。	「⑤フォーマット出力先フォルダ」を指定してください。
	フォーマットの出力先フォルダが見つかりません。	「⑤フォーマット出力先フォルダ」を確認してください。
	イメージフィールドのサイズが指定されていません。	「④イメージ名フィールドの設定」を指定してください。
エクセル書出	SP1 ファイルを出力する場合は、複数ファイルを選択できません。	「①対象フォーマットファイルまたは SP1 ファイルの指定」を確認してください。
	SP1 ファイルが選択されています。 フォーマットエディタ互換形式を選択してください。	「②シートのひな型」を確認してください。
	フォーマットエディタ互換形式を選択している場合は、xlsm ファイルを指定してください。	「③エクセルファイルの指定」を確認してください。

	標準のシートまたは拡張シート形式を選択している場合は、xls ファイルを指定してください。	「③エクセルファイルの指定」を確認してください。
	出力先のエクセルファイル名が指定されていません。	「③保存するエクセルファイルの指定」を確認してください。
	出力先のエクセルファイル名に、 template.xls は指定できません。	「③保存するエクセルファイルの指定」を変更してください。
エクセル操作	エクセルファイルを選択してください	「読み込む xlsx ファイル」を指定してください。
	編集するシートを選択してください。	「編集するシート」を選択してください。
	エクセルファイルが存在していません。確認をしてください。	「読み込む xlsx ファイル」を確認してください。
	選択されているエクセルファイルに必要なシートが存在しません。ほかのファイルを選択してください。	「読み込む xlsx ファイル」を確認してください。
イメージ関連付け	指定されたファイルは存在しません。	「①読み込む xlsx ファイル」を確認してください。
	選択されているエクセルファイルが存在しません。	「①読み込む xlsx ファイル」を確認してください。
	選択するエクセルファイルは XLSM ファイル形式を選択してください。。	「①読み込む xlsx ファイル」を確認してください。
	イメージ関連付けを行う表形式のシートを選択してください。	「②シートの選択」を指定してください。
	イメージ関連付けを行うエクセルを行う表形式のシートを選択してください。	「②シートの選択」指定してください。
SP1 ファイル	指定されたエクセルファイルが存在していません。	「読み込む xlsx ファイル」を確認してください。
	選択するエクセルファイルは XLSM ファイル形式を選択してください。。	「読み込む xlsx ファイル」を確認してください。
	Sp1 ファイルの作成に失敗しました。	指定した xlsx ファイルを確認してください。
	Sp1 ファイルが見つかりませんでした。	「Sp1 ファイルのパス」を確認してください。

・シートまたはフォーマットの設定値のエラー

シートのエラーメッセージは”フォーマットエディタ互換”のシートにのみ対応しています。
画面の設定値以外のエラーについては、xlsmシートに書き込まれます。

「出力時にエラーが報告されました。」と警告メッセージが出た場合、処理を行ったシート、あるいは出力したシートの内容を確認してください。

エラーのある行	「青く」塗りつぶされます。
エラーのあるセル	「赤く」塗りつぶされます。
エラーメッセージ	コメントに記録されます。

エラーメッセージと対処法は、以下の表を参考にしてください。

分類	エラーメッセージ	対処
エクセルシート	フィールドがありません。	
	ページが飛んでいます。	ページを順に配置してください。
	ページが昇順ではありません。	ページを順に配置してください。
	1ページから初めてください。	ページを順に配置してください。
	ページが正しくありません。	ページを順に配置してください。
	レコード長が最大を超えました。	長さを確認してください。
	漢字のみの項目長は偶数です。	長さを確認してください。
	長さは[数字]以上です。	長さを確認してください。
	引渡順は1以上でなければいけません。	引き渡し順を正しく設定してください。
	引渡順が重複しています。	引き渡し順を正しく設定してください。
	引渡順が飛んでいます。	引き渡し順を正しく設定してください。
	コメントに引渡順は設定できません。	引き渡し順を削除してください。
	入力可能文字属性が指定されていません。	文字属性を設定してください。
	優先入力指定は1つだけ指定できます。	優先入力項目を確認してください。
	フォーマット区分の指定はできません。 先頭のレコードでなければいけません。	対象の区分項目を確認してください。
	フォーマット区分の指定はできません。 長さは1～3でなければいけません。	対象の区分項目を確認してください。
	フォーマット区分の指定はできません。 小数点の入力はできません。	対象の区分項目を確認してください。
	フォーマット区分の指定はできません。 符号の入力はできません。	対象の区分項目を確認してください。
	フォーマット区分の指定はできません。 パディングの指定はできません。	対象の区分項目を確認してください。
	フォーマット区分の指定はできません。 タブの指定はできません。	対象の区分項目を確認してください。

<シートまたはフォーマットのエラーメッセージと対処法（つづき）>

分類	エラーメッセージ	対処
エクセルシート	フォーマット区分の指定はできません。 モジュラスチェックの指定はできません。	対象の区分項目を確認してください。
	フォーマット区分の指定はできません。 バウンダリ、マストキーの指定はできません。	対象の区分項目を確認してください。
	フォーマット区分の指定はできません。 範囲の指定はできません。	対象の区分項目を確認してください。
	フォーマット区分の指定はできません。 初期値の入力はできません。	対象の区分項目を確認してください。
	フォーマット区分の指定はできません。 属性は数字のみです。	対象の区分項目を確認してください。
	小数点の桁数が大きいです。	長さ及び小数点の桁数を確認してください。
	数値属性以外に数字専用項目が設定されています。	数値専用項目の設定を削除してください。
	コメント、フィラー等ではタブは無効です。	種別およびタブ設定を確認してください。
	コメント、フィラー等ではデュープは無効です。	種別およびデュープ設定を確認してください。
	コメント、フィラー等では検査は無効です。	種別および必須入力設定を確認してください。
	コメント、フィラー等では数字専用項目の指定は無効です。	種別および数値専用項目の設定を確認してください。
	フィラーでは初期値の入力は無効です。	種別および初期値の設定を確認してください。
	レコード番号では初期値の入力は無効です。	種別および初期値の設定を確認してください。
	レコード番号の長さは1～9までです。	種別および長さを確認してください。
	レコード番号は符号無しです。	種別および数値専用項目の設定を確認してください。
	レコード番号は小数点無しです。	種別および数値専用項目の設定を確認してください。
	レコード番号は数値専用項目です。	種別および文字属性の設定を確認してください。
	フォーマット名は一つだけ設定してください。	重複している場合、一つを残して他を削除してください。
	フォーマット名は長さは8バイト以下です。	種別および長さを確認してください。
	レコード番号は複数指定できません。	レコード番号は一つのみの設定にしてください。
	ベリファイ項目の全てがDUPです。	それぞれのベリファイ項目を確認してください。

	[数字]ページがコメント、フィラー等のみです。	入力項目を配置するか、ページを詰めてください。
	全ての項目がコメント、フィラー等です。	入力項目を配置してください。

Super-Entry用 フォーマット作成／フォーマット読み込みツール Ver3 操作説明書

発行者 株式会社 エス・イー・シー
東京都台東区東上野 1－8－1
布施ビル 3 階
TEL 03(3834)2408 (代表)
FAX 03(3833)6276
E-mail:support@sec-inf.co.jp

2016年3月18日第2版 発行
株式会社 エス・イー・シー